

平成 30 年度 第 68 次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう

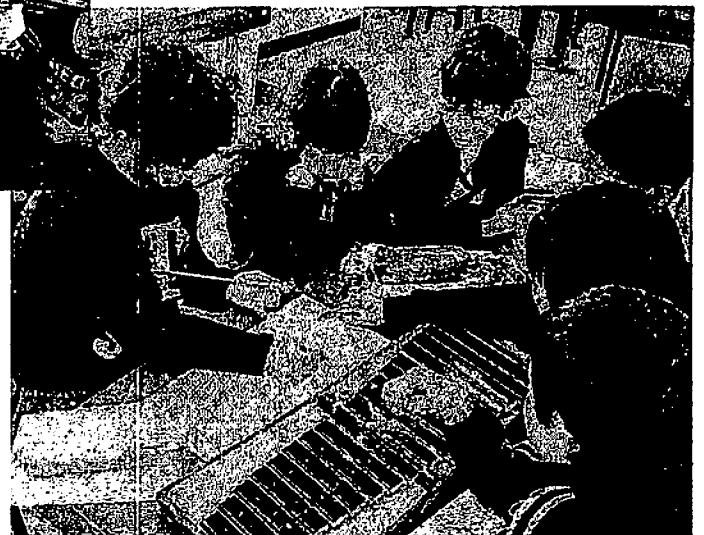
～音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる

資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「一人一人の思いを生かした豊かな音楽表現のできる児童をめざして」

～様々な言語活動や表現活動を通して～



第 1 部会

佐倉市立根郷小学校 東 聡子

目次

1	印旛地区教育研究会音楽研究部研究主題	… p 1
2	研究副主題	… p 1
3	副主題設定の理由	… p 1
	(1) 学習指導要領とのかかわり	
	(2) 学校教育目標から	
	(3) 児童の実態から	
4	研究仮説	… p 2
5	研究内容と方法	… p 2
6	指導の実際	
	検証授業①	
	演奏のみりよく「語りあおう」	… p 3
	検証授業②	
	いろいろな声で音楽をつくろう「ゆき」	… p 11
7	研究の成果と課題	… p 18

1 印旛地区教育研究会音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

一人一人の思いを生かした豊かな音楽表現のできる児童をめざして
～様々な言語活動や表現活動を通して～

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

新学習指導要領の移行期間として、以下のようなことを大切にしながら進めていこうと考えた。

主体的・対話的で深い学びを実現させるために、本校で取り組んでいる国語科の研究を生かしながら取り組んでいくようにする。国語科も音楽科も『思いを表現する』ということでは共通する部分があるので、日常的に「表現する活動」を取り入れていくことで、一人一人が思いや意図をもち、伝え合い、共有し、そしてそれらを単発で終わらせずに繰り返すことにより、表現力を深めていくことができるのではないかと考えた。

そして、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら豊かな音楽表現に結び付けられるのではないかと考えた。

(2) 学校教育目標から

本校では、「実践力があり、個性豊かでたくましい児童の育成—進取の心—」を学校教育目標に掲げ、平成28年度から国語科の研究を通して具現化を進めてきた。

国語科学習の中でも特に「話す・聞く活動」において、児童が日本語に関心をもち、主体的に学習に取り組み、自らの考えを豊かに表現できる児童の育成を図っていくこととして研究を進めている。児童は「美しい日本語」をテーマにした冊子を一人1冊持ち、年間を通じてクラスごとに毎朝音読し、日本語に親しむ活動に取り組んでいる。その結果、モデルとなる美しい文章（いわゆる名文や名作など）に触れる機会を増やしたことで「語彙」が増えたり、表現する創作活動が好きになった児童が増えたりしている。その表現力を音楽科における豊かな音楽表現にもつなげ、生かしていけるのではないかと考えた。また、日本語の美しさにもつながる共通教材を数多く扱うことで、歌詞の意味の理解に特に力を入れて取り組んだ。

(3) 児童の実態から

今回の研究を行うにあたり、本校は毎年度初めにクラス編成を行うので、どの学年でも全クラスに同様の授業を行い、2年目4月のクラス編成後も、どのクラスでも同じように検証できるようにした。

本校の児童は、素朴で素直な児童が多く、いろいろな事に対して一生懸命に取り組むことが

できる。しかし、生活習慣や学習の進め方がしっかり身につけていないこともあり、一人で考え深めていける児童は限られている。

音楽科が主体となる「音楽」に関する取り組みとしては、昨年度は音楽発表会・年5回の歌声交換会（今月の歌の異学年交流）を、今年度は2回の歌声交換会を音楽委員会を中心に行った。また、国語科とタイアップしての取り組みとしては、音楽群読発表会を実施している。

歌うことに関して、好きな児童が多く、楽しい・気持ち良いと感じているようだが、人前で歌うことに抵抗感があり、緊張し、苦手意識を感じている児童もいた。一方で、その中でも皆と歌うのであれば気持ち良い・頑張りを聴いてもらえるなど前向きな児童もいた。苦手意識をもっている児童でも、仲間と話し合い、伝え合ううちに豊かな音楽表現を見つけ、自信をもって歌えるようになるのではないかと考えた。

一人一人が思いや意図をもち、伝え合い、共有していく過程で、音楽的な見方・考え方を働かせ、国語科で学習したことを土台に、音楽科における豊かな表現につなげていきたいと考えた。自分の考え方だけでなく、仲間の多くの考え方や捉え方に触れる中で、他者と協働しながら、より良い豊かな音楽表現を導き出していけるのではないかと考え、副主題を設定した。

4 研究仮説

【仮説1】

歌詞の意味を理解し、その心情や情景をイメージして、歌詞の意味を互いに伝え合い共有する活動を充実させることで、豊かな音楽表現に生かすことができるようになるだろう。

【仮説2】

様々な曲を聴いたり歌ったりする活動を通して、歌詞と楽譜の関係に気づき、音で試す活動を充分取り入れることで、豊かな表現活動につなげることができるだろう。

5 研究内容と方法

【仮説1】について

歌詞から感じ取ったことを児童同士で伝え合い、どう表現したいか、大切にしたい言葉や表現はどこかなどの意見交換をおこなう活動を多く取り入れれば、その曲に合った音楽の表現方法を見つけることができるようになるだろう。

〈手立て〉

- ①歌詞からわかる情景や心情を考えるために、理解につながる風景や情景が想像しやすい画像を用意して、それをもとに話し合い活動をさせる。
- ②児童同士で伝え合う活動を取り入れ、共有することで、自分の考えを整理できるようにする。
- ③話し合いや意見交換を重ねることで、大切にしたい言葉や豊かに表現したいことなどを見つけ、生かせるようにする。

【仮説2】について

様々な活動を通して、歌詞と楽譜の関係を自分の感じ方とは異なる友達の思いに触れることができるようにする。その中で、音楽の構造や曲想との関わりを〔共通事項〕を手がかりに考えるようにすれば、自信をもって児童自身の思いを生かした表現活動に結びつけることができるようになるだろう。

〈手立て〉

- ①それぞれの楽曲を特徴付けている〔共通事項〕がどのような働きをしているのかを確認して、音楽の構造や曲想とどのように関わっているのかを考える。
- ②歌詞と楽譜が日本語のイントネーションとも関係していることに気づき、音で試す活動を取り入れる。
- ③〔共通事項〕を手がかりにして、自分も他者も思いや意図をもった豊かな表現活動につなげられるようにする。

6 指導の実際

検証授業①

(第6学年の授業実践) 【仮説①】 傍線 【仮説②】 波線

1 題材名 演奏のみりよく

教材名 「見よ、勇者は帰る」 (ヘンデル 作曲) (鑑賞)
「語りあおう」 (劇団四季文芸部 作詞 鈴木邦彦 作曲 横沢源 編曲)
「交響曲第5番『運命』第1楽章から」 (ベートーベン 作曲) (鑑賞)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「A表現」の(1)ア「範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。」イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」ウ「呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。」(2)ア「範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。」ウ「楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」エ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」
「B鑑賞」の(1)ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」イ「音楽を形づくっている要素とのかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」〔共通事項〕ア「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなど」イ「反復、変化、音楽の縦と横の関係」を受けて構成されている。

児童はこれまでに、5年生で「ハロー・シャイニング ブルー」を音楽発表会に向けて仕上げ、曲のイメージを色に例えてみたり、音の高低やフレーズの違いで盛り上げ方を考えたりし

ながら合唱した。「スキーの歌」では、リズムや曲想の違いを出して歌うことを経験した。6年生になり、「おぼろ月夜」では、日本の古くからある田舎の美しい情景を思い浮かべながら、言葉とフレーズの自然な関わりを感じながら歌うことを経験した。本教材「語りあおう」は、歌詞の内容を味わって、強弱や歌い方を工夫しながら、思いを生かし、表情豊かに歌う教材となっている。

本題材で扱う「語りあおう」では、歌詞から情景や気持ちなどを理解し、温かい心の交流が生まれるような表現を工夫することをねらいとしている。

そこで「語りあおう」では、この曲の背景にあるミュージカルのあらすじなどを知り、歌詞の内容を理解させるための助けになるようにする。また、A-B-A形式のAの部分が長調でありながら弱起で始まったり音の跳躍がみられたりすることで心の揺れを表していること、Bの部分が同音の反復や長いフレーズから穏やかさを表していることなどに気付かせ、曲の特徴や音楽を形づくっている要素（旋律、音色、速度、強弱、反復・変化）にも目を向けさせるようにする。そして、それらによる効果を知り、自分の思いや意図が伝わるような表現につながるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童29名は、音楽を受けもって3年目の児童たちである。歌もリコーダー奏も好きで、どんな活動にも一生懸命取り組むことができる。どちらかというとおとなしい児童が多いが、個々に体を揺らしながら歌う姿は自然体で音楽を感じている様子がわかる。学習にあたり、以下のような事前調査を行った。

1. 音楽の授業で何が好きですか。（複数回答）

楽器演奏（1人で演奏… 3名 みんなと合奏… 26名）

歌唱 （1人で歌う… 3名 みんなで1つのメロディーを歌う… 8名
 みんなで合唱… 23名）

身体表現… 3名

鑑賞 …21名

創作表現… 3名

2. 音楽の授業で苦手なものはありますか。ある人はどんなことですか。

ない… 7名 ある… 22名

（リコーダー・身体表現・発表がはずかしい・読譜・音程）

3. 歌を歌うのは好きですか。（理由）

はい… 20名（気持ち良い・楽しい・いやなことを忘れる・歌を知ることができる）

いいえ… 9名（緊張する・うまく歌えない・高い声が出ない）

- | | | | | |
|--------------|----|-----|-----|-----|
| ・一人っきりで | 好き | 20名 | きらい | 9名 |
| ・みんなで一緒に | 好き | 25名 | きらい | 4名 |
| ・みんなの前で一人で | 好き | 2名 | きらい | 27名 |
| ・お客さんの前でみんなで | 好き | 8名 | きらい | 21名 |

（一人は恥ずかしいけどみんなでだと緊張しない・みんなとだとさらに響くなど）

4. 歌う時に気をつけていることはありますか。（どんなことですか。）（複数回答）

ある… 23名 ない… 6名

(響き・口形・表情・鼻濁音・姿勢・音程・地声・発音・腹式・強弱・歌詞の内容)

5. 合唱をする時に気をつけていることはありますか。(どんなことですか。)

(複数回答)

ある…19名

ない…10名

(同上の他 みんなと合わせる・重なり・気持ちを伝える・自分のメロディー)

6. 自信をもって歌える歌はありますか。(複数回答)

ある…17名

ない…12名

校歌 7名 合唱曲 4名 童謡 3名

国歌 4名 歌謡曲 12名 アニメソング 2名 ボーカロイドの歌 1名

音楽の授業については、興味・関心が高く、合唱や合奏、鑑賞などが好きと感じている児童が多くいる反面、苦手なものがある児童も少なくない。リコーダー奏や楽器演奏、歌の発表、身体表現などを苦手と感じているようである。高学年になって副旋律の入る合唱曲も多く経験する中で、違うパートの音を感じながら音を重ねたり、音域が高くなったりすることで歌唱に対して苦手意識が出てきている児童もいるようだ。

歌を歌うこと自体は、好きな児童が多く、楽しい・気持ち良いと感じているようだ。しかし人前で一人で歌うことは恥ずかしい・緊張すると感じている児童が多い。また、たくさんの人数で歌う時でも、人前で歌うことに抵抗感があり、緊張し、苦手意識を感じている児童もいた。反面、みんなと歌うのであれば気持ち良い・頑張りを聴いてもらえるなど前向きな児童もいる。

歌う時に気をつけていることは、普段からどの曲の時にも共通して日々指導している姿勢や口の開け方など基本的なことが多く、まだ技術面に関しては、それほど気にせずに自由に歌っている児童が多いことがわかった。今後、強弱や曲想など、聴いてもらうにあたり、どう伝わるかについても指導していかなければならないこともわかった。

得意な歌に関しては、普段耳にしている曲や好きで聴いている曲が圧倒的に多かったが、中には校歌や国歌、合唱曲などをあげている児童もいて、好きであること、そして練習量が多いと自信につながることもわかった。聞き手を意識してしあげられるよう何度も繰り返し練習できるように時間を確保して取り組ませたい。

(3) 指導観

児童の実態から考えると、全体的に音楽に対する意欲・興味・関心が高く、楽しいと感じている児童がたくさんいる。しかし、歌う時に気をつけることとしては、どの曲にでも共通して気をつける基本的な内容をあげている児童が多く、強弱や曲想など技術面や聴いている人への伝わり方はあまり気にしていないようだ。

そこで、まず、運動会で聴いたことがあり、わかりやすいA-B-A形式になっている「見よ、勇者は帰る」を鑑賞することで興味をもたせる。同じ形式の曲を鑑賞することで、これを用いた「語りあおう」の曲の構成について知り、場面の变化にも関わることに気付かせたい。

また、ミュージカルの挿入歌なので、ストーリーを紹介することにより、曲のイメージ作りに役立つようにしたい。その上で、歌詞の内容をよく考えてどのような気持ちを込めて歌うとよいのかを考えさせるようにする。そして、音楽を形づくっている要素の旋律の繰り返しや変化を見

つけて、どのように歌えば気持ちが伝わるのかを考え、工夫させたい。

仲間と一緒に発表することで恥ずかしさを少しでも取り除かせるために9～10人のグループ活動を取り入れて、同じグループの児童の中で話し合うことで、一人では考えつかない児童もいろいろな考えの中から自分の感じ方に近いものを見つけることができたり、工夫したりできるようにさせる。

最後にまとめとして、「交響曲第5番『運命』第1楽章」の冒頭を鑑賞し、同じスコアでも、演奏者や指揮者によって表現が違うことを感じ取らせ、よさを味わわせるようにする。

曲の構成を知り曲想を感じ取って、グループ活動をして表現の工夫を考えたり、指揮者や表現者の違いを鑑賞したり、様々な活動の中で、旋律の反復・変化、強弱や音の重なりなど音楽の仕組みなどに関する知識も楽曲との関わりの中で意識づけし、理解できるように支援していきたい。

3 題材の目標

○歌詞の内容を味わい、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いを生かして歌う。

○様々な演奏による音楽表現の違いを感じ取り、そのよさを味わって聴く。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
様々な演奏のよさに興味・関心をもって鑑賞したり、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	旋律の反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	互いに聴き合い、旋律の反復・変化を感じ取りながら歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。	速度・強弱などを手がかりに、いろいろな演奏を聴き比べ、感じ取ったことを言葉で表すなどして、曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

5 指導と評価の計画 (5時間扱い)

時間	ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆[共通事項]	教師の働きかけ ○評価規準 【評価方法】
第一時	<p>ねらい：歌詞の内容を味わい、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いを生かして歌う。</p> <p>○「見よ、勇者は帰る」を鑑賞する。 ・場面の変化を聴き取りながら聴く。 ☆反復・変化</p> <p>○「語りあおう」の曲の感じをつかみ、主旋律を歌う。 ・範唱を聴いて曲想を感じ取り、主旋律を歌う。</p> <p>○歌詞の内容を理解して、曲想を味わって歌う。 ・<u>歌詞をていねいに読んで、どんな気持ちで歌ったらよいか考え、話し合う。</u> ・<u>旋律が繰り返すところと変わるところを見つけ、強弱やフレーズの歌い方の工夫をする。</u> ☆反復・変化、強弱、フレーズ</p>	<p>・曲の感じが変わったところに気をつけて聴き、場面の変化を感じ取らせるようにする。</p> <p>・A-B-A形式であることに気づき、音楽の構成について復習させる。</p> <p>・曲の構成が「見よ、勇者は帰る」と同じであることを確認し、感じの違いやフレーズ感を大切にしながら歌うようにする。</p> <p>○「語りあおう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p><関>【歌っている様子の観察・歌声の聴取】</p> <p>・ミュージカルの挿入歌なので、ストーリーを紹介する。</p> <p>・フレーズごとに呼びかけるように歌うようにさせる。</p> <p>○「語りあおう」の旋律の反復・変化を聴き取り、強弱やフレーズの歌い方をどのように表現するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p><創>【歌っている様子の観察・歌声の聴取】</p>
第二時	<p>○「語りあおう」の楽器パートをリコーダーなどで演奏する。 ・楽器部分の範奏を聴き、旋律を練習する。 ・2小節ごとのフレーズを大切に演奏する。 ☆反復・変化、フレーズ</p>	<p>・階名読みで歌わせて、流れを感じ取らせておく。</p> <p>・「bシ」「bレ」のリコーダーの指使いを確認する。</p>
第三時 本時	<p>○部分二部合唱をする。 ・二部に分かれて、各パートを練習する。 ・二部合唱をする。</p> <p>○二部合唱に楽器を加えて演奏する。 ・各パートを交互に分担し演奏する。</p>	<p>○「語りあおう」の旋律の反復・変化を聴き取り、強弱やフレーズの歌い方をどのように表現するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p><創>【歌っている様子の観察・歌声の聴取】</p> <p>・歌と楽器のバランスに気をつけさせる。</p> <p>○互いのパートの旋律や伴奏を聴きながら、表情豊かに「語りあおう」を合唱している。</p> <p><技>【演奏している様子の観察・歌声の聴取】</p>

	<p>○グループに分かれて歌詞の内容、曲想を生かした表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、合唱二部と楽器パートに分かれ、表現の工夫をしながら表情豊かに歌う練習をする。 <p>○グループの聴いてほしい工夫したポイントを説明して、伝わるように発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌と楽器のバランスに気をつけさせる。 ・各グループのもつ思いや意図を考えながら聴くように助言する。 <p>○「語りあおう」の歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>〈創〉【演奏している様子の観察・歌声の聴取】</p>
<p>第四時</p>	<p>○交響曲第5番「運命」第1楽章を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの響きを味わって聴く。 <p>○交響曲について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式・形態について理解し、オーケストラの楽器の名前や配置を確認する。 ・オーケストラのスコアを見ながらどんな楽器が使われているのか確認する。 <p>○ベートーベンについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベートーベンの生い立ちや作品について知る。 <p>○交響曲第5番「運命」第1楽章の冒頭を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度・強弱などを意識して聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の冒頭を意識して聴かせるようにする。 <p>○交響曲第5番第1楽章の全体の曲想やその変化を感じ取り、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的に取り組もうとしている。〈関〉【表情の観察・記述の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真や挿絵を活用し、楽器の形や表現の方法などがわかるようにする。 ・写真集や伝記の本、インターネットなどを活用する。 ○速度・強弱などを手がかりに、感じ取ったことを言葉などで表すなどして、交響曲第5番「運命」第1楽章の冒頭の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 <p>〈鑑〉【表情の観察・記述の内容】</p>
<p>第五時</p>	<p>○交響曲第5番「運命」第1楽章の冒頭を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な演奏者の演奏を速度・強弱に気をつけて聴く。 <p>○演奏者や指揮者による表現の違いを感じ取り学習カードにまとめる。</p> <p style="text-align: center;">☆速度、強弱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な演奏家の「運命」の演奏を用意しておく。 ・オーケストラの楽器や響きに気をつけながら最初はCDで聴覚から、次にDVDで視覚からと段階を踏んで活用し、楽器を演奏する人や指揮者の違いによる表現の違いを感じ取って聴く。 <p>○演奏者や指揮者による表現の違いを聴き比べ、それぞれの音楽表現のよさを味わって聴いている。</p> <p>〈鑑〉【表情の観察・記述の内容】</p>

6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

- 「語りあおう」をグループごとに練習し、自分たちの考えや願いを生かした表現の工夫をして発表することができる。

(2) 本時の展開

過 時 程 配	○主な学習内容 ・学習活動	◎教師の働きかけ ○評価 【評価方法】 ☆共通事項
め あ て を も つ	5 ○「語りあおう」の主旋律・副旋律を歌う。 ○リコーダーで楽器パートを演奏する。 ○本時のめあてをつかむ。	◎姿勢、口形に気をつけて、声の響きを感じながら歌うように助言する。 ◎口形、発音などに気をつけて読むようにさせる。 ◎前時までの復習をする。 ◎今まで練習してきた各パートの表現の仕方を使って、グループごとの工夫をするように伝える。
自分たちの考えた「語りあおう」をグループで発表しよう。		
見 通 し を も つ	10 ○グループに分かれて、歌詞の内容や曲想を生かした表現になるように考える。 ・グループ内で合唱二部とリコーダーパートの分担を決める。 「リコーダーは一人でも大丈夫だよ。」 「副旋律は少なめでいいんじゃないかな。」 「主旋律と副旋律は同じくらいの人数がいいかもね。」 ○グループごとにどこを工夫するのかポイントを決める。 「後半が盛り上がるようにしよう。」 「中間部は少し寂しい感じがいいよ。」	◎それぞれのグループのよさを生かして、担当や人数を決めるようにさせる。 ◎担当人数のおすすめは伝えた上で、何回か試してみて歌と楽器のバランスがよくなるような人数を考えるようにさせる。 ◎1グループ9～10人の中で主旋律・副旋律・リコーダーの3パートに分かれるようにする。 ○お互いのパートの旋律や伴奏を聴きながら、バランスを考えて合唱奏している。 <技>【演奏している様子の観察・歌声の聴取】 ◎音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みを手がかりにすると考えやすいことを伝える。 ☆旋律・強弱・音の重なり・反復・変化 ◎グループ内で話し合いながら、グループの表現の工夫をプリントに書きこむようにさせる。 ◎話し合いがうまく進んでいないグループには、特徴づけている要素に気づくよう助言する。
考 え を 深 め る	20 ○グループで決めた表現の工夫ポイントが伝わるように練習する。	◎練習する中で、何度も試しながら工夫ポイントが伝わる表現ができるようにさせる。 ◎友達の意見を聞いて認め合ったり、工夫したり、全員が自信をもって表現できるよう支援する。 ○歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように

振り返る	10	○グループ発表をして、まとめる。	<p>歌うかについて自分の考えや願い、意図をもって表現している。 <創>【行動の観察・発言の内容】</p> <p>◎発表の前には、それぞれの工夫ポイントを伝えさせる。</p> <p>◎工夫ポイントに注目して聴くようにさせる。</p> <p>◎それぞれのグループの工夫ポイントやよいところを認め合い、次の学習に生かせるようにさせる。</p>
------	----	------------------	---

(3) 板書の工夫

自分たちの考えた「語り合おう」をグループで発表しよう。	音楽を特徴づける要素			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"> 学習の進め方 ①担当人数を決める。→プリントに記入 グループの人数 () 人 ・主旋律… () 人 ・副旋律… () 人 ・リコーダー () 人 ②工夫ポイントを決める。→プリントに記入 ③工夫ポイントが伝わるように練習する。 </td> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto;"> 「語り合おう」 拡大譜 </div> </td> <td style="vertical-align: top;"> 旋律 リズム 繰り返し 強弱 速さ 音の重なり </td> </tr> </table>	学習の進め方 ①担当人数を決める。→プリントに記入 グループの人数 () 人 ・主旋律… () 人 ・副旋律… () 人 ・リコーダー () 人 ②工夫ポイントを決める。→プリントに記入 ③工夫ポイントが伝わるように練習する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto;"> 「語り合おう」 拡大譜 </div>	旋律 リズム 繰り返し 強弱 速さ 音の重なり	
学習の進め方 ①担当人数を決める。→プリントに記入 グループの人数 () 人 ・主旋律… () 人 ・副旋律… () 人 ・リコーダー () 人 ②工夫ポイントを決める。→プリントに記入 ③工夫ポイントが伝わるように練習する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto;"> 「語り合おう」 拡大譜 </div>	旋律 リズム 繰り返し 強弱 速さ 音の重なり		

(4) 本時の評価と教師の働きかけ

Aと判断される児童の学習の状況
歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、自分の想いや意図をもって表現することができる。
努力を要する学習状況と思われる児童に対しての指導の手だてや働きかけ
友達と考えた表現の工夫や教師の助言を聞いて、自分の想いや意図に近い表現を見つけることができるようにする。

検証授業②

(第5学年の授業実践) 【仮説①】 傍線 【仮説②】 波線

- 1 題材名 いろいろな声で音楽をつくろう
教材名 「ゆき」 (草野心平 作詞)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「A表現」の(3)ア「いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。」イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽を作ること。」[共通事項]ア「音色、リズム、速度、強弱、音の重なり」イ「反復、変化、音楽の縦と横の関係」を受けて構成されている。

児童はこれまでに、4年生で「おはやし」で使う音を使ってリコーダーでの音楽作りを経験している。本教材「ゆき」は、国語科の詩の形のものから情景を想像して、リズムや速度、強弱などいろいろな条件を変えて、自分の声で自由に表現し、音楽作りをする教材となっている。

本題材は、言葉の響きから情景などを想像し、反復、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを使いながら、雪の降り積もっていく様子を表現する音楽を作ることねらいとしている。

そこで本題材では、様々な声の出し方があり、音読の声の出し方やリズムの変化によって伝わる様子や雰囲気が変わってくることに気づき、自分の表したい情景に合う音を探していけるようにする。また、音楽を形づくっている要素(旋律、音色、速度・強弱、反復・変化)にも目を向けさせ、それらによる効果を知り、自分の思いや意図が伝わるような音楽作りにつながるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童29名は、今年度初めに学級編制があり、音楽を受けもって2年目の児童たちである。歌もリコーダー奏も好きで、どんな活動にも一生懸命取り組むことができる。個々に体を揺らしながら歌う姿は自然体で音楽を感じている様子がわかる。学習にあたり、以下のようない事前調査を行った。

1. 音楽の授業で何が好きですか。

楽器演奏 (1人で演奏… 0名 みんなと合奏… 27名)
歌唱 (1人で歌う… 2名 みんなで1つのメロディーを歌う… 0名
みんなで合唱… 20名)
身体表現… 2名
鑑賞 … 5名
創作表現… 2名

2. 音楽の授業で苦手なものはありますか。ある人はどんなことですか。

ない… 15名 ある… 14名 (リコーダー・身体表現・発表がはずかしい・読譜)

3. 歌を歌うのは好きですか。(理由)

はい… 25名 (気持ち良い・楽しい・いやなことを忘れる・歌を知ることができる)
いいえ… 4名 (緊張する)

・一人っきりで	好き	18名	きらい	11名
・みんなで一緒に	好き	28名	きらい	1名
・みんなの前で一人で	好き	6名	きらい	23名
・お客さんの前でみんなで	好き	22名	きらい	7名

(一人は恥ずかしいけどみんなですだと緊張しない・みんなとだとさらに響くなど)

4. 歌う時に気をつけていることはありますか。(どんなことですか。)(いくつでもいいです。)

ある… 16名 ない… 13名
(響き・口形・表情・鼻濁音・姿勢・音程・地声・発音・腹式・強弱・歌詞の内容)

5. どんな曲が好きですか。

楽器で演奏している曲	18名	民謡	6名
歌手の歌っている日本の曲	21名	童謡	3名
歌手の歌っている外国の曲	12名	演歌	3名
アニメソング	19名	日本の古くからの歌	7名
ボーカロイドの歌	13名	その他	3名

6. 曲を作ったことはありますか。

ある… 7名 ない… 22名

音楽の授業については、興味・関心が高く、合唱や合奏などが好きと感じている児童がとても多くいる反面、苦手なものがある児童も少なくない。リコーダー奏や楽器演奏、歌の発表、身体表現などを苦手と感じているようである。創作表現に関しては、経験が少ないためか、好きでもなく、苦手でもなく、あまり印象に残っていないようである。

歌を歌うことに関しては、好きな児童が多く、楽しい・気持ち良いと感じているようだが、人前で歌うことに抵抗感があり、緊張し、苦手意識を感じている児童もいた。歌うことは好きでも、人前で一人で歌うことは恥ずかしい・緊張すると感じている児童が多い。一方で、その中でもみんなと歌うのであれば気持ち良い・頑張りを聴いてもらえるなど前向きな児童もいる。

歌う時に気をつけていることは、普段からどの曲の時にも共通して伝えていることが多いが、児童によって捉え方がまちまちでそれほど気にせず自由に歌っている児童が多いことがわか

った。今後、高学年に必要なポイントも増やして、繰り返し指導していかなければならないこともわかった。好きな曲に関しては、流行りの曲に敏感で、いろいろなジャンルの音楽を聴ける環境にあることが伺える。今までの経験の積み重ねから、古くから歌われている曲に関心をもって
いる児童もいる。

曲作りに関しては、作ったことがないと答える児童が多かったが、簡単な即興的な音作りは実際に経験してきてはいる。それを曲作りと捉えていなく、忘れていた児童もいると思われる。曲作りに関しては大がかりな作曲活動をイメージしている児童がいるようなので、難しく考えず、楽しく音にふれながら取り組ませたい。

(3) 指導観

児童の実態から考えると、全体的に音楽に対する意欲・興味・関心が高く、楽しいと感じている児童がたくさんいる。また、流行のテンポのよい曲に親しんでいる児童が多いようだが、古くからの曲も好きな曲として記憶に残っていることがわかった。曲作りに関しては、難しく考えている児童が多いようだ。

そこで、曲のイメージ作りに役立つ写真や絵を紹介したり、詩を読む回数を確保して情景を物語のように捉えさせたり、場面が変化していく様子を音楽の仕組みを手がかりにして曲作りに生かせるようにしていきたい。また、いろいろな読み方を試したり、友達が読むのを聴いたり、多角度からの活動をしていく中で、情景の変化や物語が進んでいく様子を自分たちが表したいイメージにできるだけ近づけられるようにしていく。その際には、考えをまとめやすくするために、「レ・ファ・ソ・ラ」の中から音を選ぶこと、繰り返しは何回でもよいこと、「続く感じ・終わる感じ」も意識することなど、いくつかの条件の中で活動させる。

一人では活動が進まない児童や歌うのが恥ずかしい児童もいるので、5～6人のグループ活動を取り入れて、同じグループの児童の中で自分に近い表現を見つけ、その真似をすることから始められるようにさせる。また、グループの活動では、あまり音が広がらず、音程をつかみやすいことから卓上木琴を活用し、繰り返し音を試すことができるようにさせる。

様々な活動の中で、音楽の仕組みなどに関する知識も楽曲との関わりの中で少しずつ理解していけるように支援していきたい。

3 題材の目標

- 「ゆき」に興味をもち、その様子を意欲的に音や音楽に表そうとしている。
- 「ゆき」をイメージして言葉に合った音を探し、音楽の仕組みを生かして音楽を作ろうとしている。
- 音楽を形づくっている要素を手がかりに、全体の流れを工夫した音楽をつくることができる。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
声に出して表現することや、音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに主体的に取り組んでいる。	雪の降り積もる様子を表現するために、思いや意図をもって音楽の仕組みを工夫している。	音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素を生かして雪の降る様子を「聴いている人にも情景が思い浮かぶ音楽」に表している。

5 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	ねらい	教師の働きかけ
	○学習内容 ・学習活動 ☆[共通事項]	○評価規準 【評価方法】
第一時	ねらい：雪の降る様子を表す言葉に合う音を考え、情景を想像できるように工夫して作る。	
本時	<p>○黒板に書いたいろいろな線に合わせて声を出す。</p> <p>○「ゆき」を音読して様子を思い浮かべる。 ☆反復・変化・リズム ・<u>気付いたことなどを発表し合う。</u></p> <p>○どんな雪の様子を表すかを決める。</p> <p>○「しんしんしんしん」の言葉に合う音を考える。 ☆反復・変化・リズム ・言葉に合わせて自由に表現する。</p> <p>○「ゆきふりつもる」の言葉に合う音を考える。 ☆反復・変化・リズム ・言葉に合わせて自由に表現する。</p>	<p>・様々な声の出し方ができるような線を工夫して提示し、いろいろな声を出せるようにする。</p> <p>・<u>言葉の響きから読み方によってはいろいろな場面を想像できることに気づかせる。</u></p> <p>・写真や絵を提示することで、「ゆき」の情景を想像しやすくする。</p> <p>・範囲が広がりすぎないように「レ・ファ・ソ・ラ」の音の中から選ぶようにさせて、考えやすくさせる。</p> <p>・言葉の区切りを変えたり、一部分だけを繰り返したりして表現してもよいことを伝える。</p> <p>・<u>音のイメージをもちやすくするために卓上木琴を使って考えるようにさせる。</u></p> <p>○声に出して表現することや、音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>〈関〉【行動の観察・発言の内容】</p> <p>○雪の降り積もる様子を表現するために、思いや意図をもって音楽の仕組みを工夫している。 〈創〉【行動の観察・発言の内容】</p>

第
二
時

○表現したい「ゆき」の物語を考える。

☆変化

- ・グループの聴いてほしい工夫したポイントがわかるように仕上げる。

○各グループの「ゆき」の音楽を発表する。

- ・物語と工夫したポイントも紹介して発表させる。

○感想を発表する。

・A-B-AかA-B-Cのどちらかを選び、わかりやすい物語にさせる。

・物語を簡単な言葉で伝えられるようにする。

・反復・リズム・変化だけではなく、速度・強弱・音の重なりなどによっても曲の雰囲気を変化することを伝える。

・各グループのもつ思いや意図を考えながら聴くように助言する。

○音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素を生かして雪の降る様子を「聴いている人にも情景が思い浮かぶ音楽」に表している。 <技>【行動の観察・発言の内容】

○雪の降り積もる様子を表現するために、思いや意図をもって音楽の仕組みを工夫している。

<創>【行動の観察・発言や記述の内容】

6 本時の指導 (1/2)

(1) 本時の目標

- 雪の降る様子を表す言葉に合った音を探し、自分たちが表したい情景に合う音作りをすることができる。

(2) 本時の展開

過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動	◎教師の働きかけ ○評価 【評価方法】 ☆共通事項
めあてをもつ	3	○今月の歌「桜の街」を歌う。	◎姿勢、口形に気をつけて、声の響きを感じながら歌うように助言する。
	5	○「ゆき」を音読する。 ・様子を発表する。	◎口形、発音などに気をつけて読むようにさせる。 ◎言葉の響きから読み方によってはいろいろな場面を想像できることに気づかせる。
見通しをもつ	2	○本時のめあてをつかむ。	
	5	○「しんしんしんしん」を黒板に書いたいろいろな線に合わせて声を出す。 ・言葉の響きに合わせて、自由に考えてみる。 ・ささやくように…しんしん ・のぼしたり、ちぢめたり …しーん しん ・強さ、高さを変えて …しん しん ・一人ではなく、重ねて …しん しん しん しん しん	◎様々な声の出し方ができるような線を工夫して提示し、いろいろな声を出せるようにする。 ◎高さ、長さ、強さ、明るさなどを変えてみて、表現の仕方によって伝わり方が違うことに気づくようにさせる。 ☆反復・変化・リズム
考えを深める	5	○グループごとにどんな雪の様子を表すかテーマを決める。	◎どんな情景が想像できるかわかりやすくするために、写真や絵を提示する。
	23	○「しんしんしんしん」と「ゆきふりつもる」の言葉に合う音を考える。 ・グループで決めた様子を表せる言葉の響きに合うように、自由に考える。	◎言葉の区切りを変えたり、一部分だけを繰り返したりして表現してもよいことを伝える。 ◎範囲が広がりすぎないように「レ・ファ・ソ・ラ」の音の中から選ぶようにさせて、考えやすくさせる。 ◎音のイメージをもちやすくするために卓上木琴を使って考えるようにさせる。 ◎いろいろな音の感じをグループで考えることで、友達の見聞を聞いて認め合ったり、思いつかない児童はまねを

雪の降る様子が伝わるような音を探して、音作りをしよう。

振 り 返 る	2	○本時の学習を振り返る。	<p>したり、全員が情景をイメージすることができ、自信をもって音作りに参加できるよう支援する。</p> <p style="text-align: right;">☆反復・変化・リズム</p> <p>○声に出して表現することや、音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">〈関〉【行動の観察・発言の内容】</p> <p>○雪の降り積もる様子を表現するために、思いや意図をもって音楽の仕組みを工夫している。</p> <p style="text-align: right;">〈創〉【行動の観察・発言の内容】</p>
------------------	---	--------------	---

(3) 板書の工夫

雪の降る様子が伝わるような音を探して、音作りをしよう。

「しん」のいろいろな表現の仕方
(横書き)

学習の進め方

- ①グループで雪降る様子のテーマを決める。
- ②「しんしんしんしん」と「ゆきふりつもる」の言葉に合う表し方を考えてプリントに書きこむ。
 - ・強さ、長さ、明るさ、重なり など
 - ・音の高さ(レ・ファ・ソ・ラから選ぶ)

(4) 本時の評価と教師の働きかけ

Aと判断される児童の学習の状況
雪の降る様子を表すいろいろな音を探し、自分が表現したい音作りをすることができる。
努力を要する学習状況と思われる児童に対しての指導の手だてや働きかけ
友達の考える音や教師の助言を聞いて、自分が表現したい音を見つけることができるようになる。

7 研究の成果と課題

【成果】

仮説1について

- ・ 歌詞から感じ取ったことを話し合う活動を何度も取り入れることで、既習の内容を生かして伝え合いや話し合いを進めることができるようになった。
- ・ 児童同士の伝え合いや話し合い活動によって、自分の思いや意図をうまく表現できない児童も自分に近い考えを見つけ、整理し、自信をもって表現できるようになってきた。
- ・ 「おぼろ月夜」の表現の工夫として、歌詞・音の動きからの読み取りがスムーズにできるようになった。

仮説2について

- ・ 国語科で日本語を研究していることからたくさんの歌詞の読み取りに結びついたり、イントネーションとの関係に気付きやすかったり、国語科との関連が様々な言語活動に役立った。
- ・ 小グループで話し合うことで、音で試す活動などは自分の思いや意図をもって伝えやすくなり、繰り返し試すことができた。
- ・ 【共通事項】を手がかりに考えることを何度も行ったことで、既習の内容を生かして、自信をもって豊かな表現活動につなげることができた。

【課題】

仮説1について

- ・ 伝え合い、話し合い、意見交換した内容を視覚的にもわかりやすく掲示する工夫が必要だった。
- ・ 既習の内容をすぐ思い出し、視覚的に何度も振り返りができ、活用できるように掲示物として残しておくことが必要だった。

仮説2について

- ・ グループごとに歌詞の意味を考える活動には意欲的に取り組むが、なぜそう表現したいかを話し合いの内容に入れながら進められるようなワークシートを作成するとよい。
- ・ 音を試す活動では、児童同士の意見がまとまるのに思った以上に時間がかかってしまったので、児童の実態に合わせた指導計画を検討する必要がある。
- ・ 良い考えや意見は児童から出るようになったが、それを実際に音楽で表現するための手立てを身につけさせていきたい。

平成30年度 第68次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう

～音楽的な見方・考え方を働かせ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「主体的に音楽を聴き、味わうことのできる指導の工夫」
～伝え合い共感する鑑賞の学習を通して～



第3部会

白井市小学校 音楽研究部

1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「主体的に音楽を聴き、味わうことのできる指導の工夫」
～伝え合い共感する鑑賞の学習を通して～

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

印旛地区教育研究会音楽研究部の研究主題を受け、児童が音楽の美しさを「聴き取り、感じ取り、伝え合う」ためには、音楽を聴いて感動する体験などを大切にしながら、児童が思いや意図をもって進んで聴こうとしたり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育てていくことが重要と考えた。

幅広く多様な音楽を鑑賞し理解を深めることは、児童が主体的に鑑賞する姿勢を育てることにつながるであろうと考える。そこで、鑑賞活動に児童が主体的に取り組むためにはどのような指導の工夫をしたらよいか、授業実践を通し仮説をたてて検証し、研究に取り組むことにした。

新学習指導要領における音楽科の教科目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。今回の白井市の研究では、新学習指導要領が平成30年度から移行期間となり、平成32年度からは完全実施となることを見据えつつ、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すれば曲全体を味わって聴くことができるようになると考え、副主題を設定した。

(2) 児童の実態

白井市の小学校は、気軽に情報交換をしたり授業で使用する教材を共有し合ったりするなど、普段から連携を取り協力し合っている。本研究を進めるに当たって、まず各校での鑑賞の学習において授業で行っている活動内容や児童の実態を提示し合い、学習の進め方や児童の実態についての現状を把握・共有することにした。

その結果、鑑賞の学習の進め方としては、音楽に合わせて体を動かしたり気付いたことを話し合ったりすることで曲の特徴をとらえさせ、指導者がまとめていく展開が多く実践されていた。児童の実態としては、音楽を聴いて体を動かすことが好きな児童がどの学校でも多

いことがわかった。曲の「速度」「強弱」の変化に合わせて動いたり、「明るい」「楽しい」「暗い」「勇ましい」など曲の雰囲気を感じ取って動いたりすることも、多くの児童が楽しみながらかつ自信を持って取り組んでいることがわかった。

しかし、その曲のよさなどを言葉や文で表そうとすると、適切な言葉が見つけれず、戸惑っている姿が見られる。そのため、どの学年においても学習指導要領内容の構成B鑑賞(1)ウ「楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」の能力を育成するための授業改善をする必要がある、と市内各校共通の課題意識をもつに至った。

曲のよさを言葉や文で伝え合うことが自信をもってできるようになれば、曲の特徴や演奏のよさをより深く学ぶことができるであろう。どのような手立てを取っていけば、鑑賞の活動を通して言葉や文で表す活動、感じ取ったことを伝え合う活動が充実するのかということに焦点を当てることとし、本副主題を設定した。

4 研究仮説

【仮説1】 感じ取ったことを曲の流れの中で明確にすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかり合いに気付き、曲全体を味わうことができるだろう。

【仮説2】 友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりする言語活動を工夫すれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう。

5 仮説について（めざす児童像とそのための手立て）

	めざす児童像	そのための手立て
【仮説1】	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴を手がかりとしながら、全体がどのようになっているか見通して聴くことができる児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れる。 何もポイントを与えないで (個々の感じ取り方で曲全体を味わうために) 授業のねらいにそったポイントをしぼって (曲の特徴をとらえやすくするために) ・楽曲の流れや特徴、楽曲の構造が視覚的に理解しやすいような板書や掲示物、ワークシートを工夫する。 掲示物の色を変える (音楽の流れや楽曲の構造をとらえるために) 色別や線描で示す(特徴をとらえるために)
【仮説2】	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴やよさなど、気付いたことを自信をもって主体的に伝え合う児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの形式を工夫する。 音楽リーフレット形式で 音楽新聞形式で 友達との交流の記録が残せるように ・共有のさせ方を工夫する。 少人数から広げて 同じ感じ方の友達同士で 違う感じ方の友達同士で

1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

2 研究副主題

「主体的に音楽を聴き、味わうことのできる指導の工夫」
～伝え合い共感する鑑賞の学習を通して～

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

印旛地区教育研究会音楽研究部の研究主題を受け、児童が音楽の美しさを「聴き取り、感じ取り、伝え合う」ためには、音楽を聴いて感動する体験などを大切にしながら、児童が思いや意図をもって進んで聴こうとしたり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育てていくことが重要と考えた。

幅広く多様な音楽を鑑賞し理解を深めることは、児童が主体的に鑑賞する姿勢を育てることにつながるであろうと考える。そこで、鑑賞活動に児童が主体的に取り組むためにはどのような指導の工夫をしたらよいか、授業実践を通し仮説をたてて検証し、研究に取り組むことにした。

新学習指導要領における音楽科の教科目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。今回の白井市の研究では、新学習指導要領が平成30年度から移行期間となり、平成32年度からは完全実施となることを見据えつつ、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すれば曲全体を味わって聴くことができるようになると考え、副主題を設定した。

(2) 児童の実態

白井市の小学校は、気軽に情報交換をしたり授業で使用する教材を共有し合ったりするなど、普段から連携を取り協力し合っている。本研究を進めるに当たって、まず各校での鑑賞の学習において授業で行っている活動内容や児童の実態を提示し合い、学習の進め方や児童の実態についての現状を把握・共有することにした。

その結果、鑑賞の学習の進め方としては、音楽に合わせて体を動かしたり気付いたことを話し合ったりすることで曲の特徴をとらえさせ、指導者がまとめていく展開が多く実践されていた。児童の実態としては、音楽を聴いて体を動かすことが好きな児童がどの学校でも多

いことがわかった。曲の「速度」「強弱」の変化に合わせて動いたり、「明るい」「楽しい」「暗い」「勇ましい」など曲の雰囲気を感じ取って動いたりすることも、多くの児童が楽しみながらかつ自信を持って取り組んでいることがわかった。

しかし、その曲のよさを言葉や文で表そうとすると、適切な言葉が見つけれず、戸惑っている姿が見られる。そのため、どの学年においても学習指導要領内容の構成 B 鑑賞 (1) ウ「楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」の能力を育成するための授業改善をする必要がある、と市内各校共通の課題意識をもつに至った。

曲のよさを言葉や文で伝え合うことが自信をもってできるようになれば、曲の特徴や演奏のよさをより深く学ぶことができるであろう。どのような手立てを取っていけば、鑑賞の活動を通して言葉や文で表す活動、感じ取ったことを伝え合う活動が充実するのかということに焦点を当てることとし、本副主題を設定した。

4 研究仮説

【仮説1】 感じ取ったことを曲の流れの中で明確にすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いに気づき、曲全体を味わうことができるだろう。

【仮説2】 友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりする言語活動を工夫すれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう。

5 仮説について（めざす児童像とそのための手立て）

めざす児童像	そのための手立て
<p>【仮説1】</p> <p>・曲の特徴を手がかりとしながら、全体がどのようになっているか見通して聴くことができる児童</p>	<p>・音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れる。 何もポイントを与えないで (個々の感じ取り方で曲全体を味わうために) 授業のねらいにそったポイントをしぼって (曲の特徴をとらえやすくするために)</p> <p>・楽曲の流れや特徴、楽曲の構造が視覚的に理解しやすいような板書や掲示物、ワークシートを工夫する。 掲示物の色を変える (音楽の流れや楽曲の構造をとらえるために) 色別や線描で示す (特徴をとらえるために)</p>
<p>【仮説2】</p> <p>・楽曲の特徴やよさなど、気付いたことを自信をもって主体的に伝え合う児童</p>	<p>・ワークシートの形式を工夫する。 音楽リーフレット形式で 音楽新聞形式で 友達との交流の記録が残せるように</p> <p>・共有のさせ方を工夫する。 少人数から広げて 同じ感じ方の友達同士で 違う感じ方の友達同士で</p>

6 指導の実際

研究Ⅰ（平成29年度）

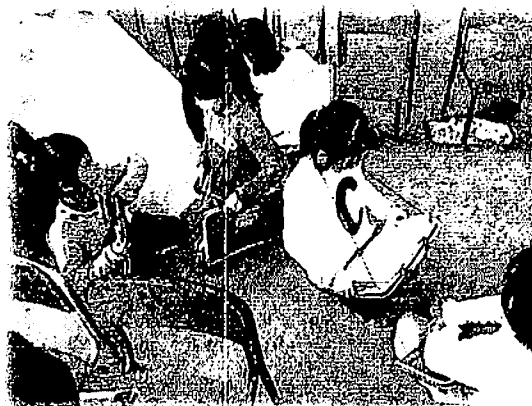
白井市内6つの小学校で仮説を検証するための授業を行った。授業では児童が親しみやすいA-B-Aの三部形式の楽曲（「始め、中、終わり」）を題材として取り上げた。以下の6曲である。

- 第1学年…「おどるこねこ」アンダソン作曲
- 第2学年…「ゆかいな時計」アンダソン作曲
- 第3学年…「メヌエット」ビゼー作曲
- 第4学年…「ノルウェー舞曲 第2番」グリーグ作曲
- 第5学年…「つるぎのまい」ハチャトゥリアン作曲
- 第6学年…「ハンガリー舞曲 第5番」ブラームス作曲

次のページからは、各校の授業実践の様子をまとめたものである。指導計画から、「学習内容」と「主な活動」のみ抜粋し、成果と課題を記した。

※【仮説1】に関わる活動や手立ては**ゴシック正体**で、【仮説2】に関わる活動や手立ては**ゴシック斜体**で示してある。

※各実践の写真資料は最後に「資料編」としてまとめた。



授業実践①第1学年（池の上小学校）

題材名 ようすをおもいうかべて おんがくをきこう（3時間）

教材名 「おどるこねこ」 アンダソン作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	○曲の気分を感じ取って聴く。 ・最初に聴いて気が付いたことわかったことをワークシートに書く。 友だちと交換し、お互いの感想を共有する。 ○拍の流れによって体を動かし楽曲全体を聴く。 ・曲の気分や「問いと答え」、反復に気付く。	○想像力を高める。 ・ 曲名を知らせなかつたり最後の犬と猫の鳴き声の部分のカットしたりして聴く。
2	○「おどる こねこ」の「はじめ、なか、おわり」のそれぞれの特徴を感じ取る。 ・「はじめ、なか、おわり」 曲の構成のそれぞれの気分の違いを体の動きで確認する。	○曲の構成を理解しやすくする。 ・「始め、中、終わり」 それぞれの部分ごとに聴き 、「問いと答え、速度、音色」などを話し合う。
3	○曲全体から感じ取ったことをまとめる。 「問いと答え」「反復」「変化」など 曲を特徴づけている要素を体の動きで表し、曲全体の特徴を確認する。 曲の一番おもしろいところをワークシートに書き、 友だちと伝え合う。 最後に曲全体を通して聴き、全体の特徴や楽しさを味わう。	○ 友だちの考えを共有する。 ・曲の構成や「始め、中、終わり」のそれぞれの特徴や最初のもんなの感想、 音楽的要素をまとめた拡大資料をもとに一番おもしろかったところをワークシートに書く。 何人の友だちと伝え合うことができるか、チェックする。

【仮説1】について

- 導入で指導のポイントとなる【共通事項】問いと答え（本校では「音楽の会話」）を意識しやすくするために、旋律を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたりした結果、「音楽の会話」の面白さを感じ取ることができ、他の題材でも意識できるようになった。
- 付箋を使うことで単語や短い文で書くことができ、もっと書きたいという意欲へとつながった。
- △語彙が少ない児童への配慮として言葉の例を出して説明するだけでなく、お手本となる児童の言葉を全体で共有することで、音楽を形づくっている要素に気付きやすくとよかった。

【仮説2】について

- グループ活動では、担任との情報交換によりグループ活動の約束事が徹底していたので、活動がスムーズに進んだ。意見交換については日常の経験を生かし積極的に楽しくできた。
- △楽曲の始め、中、終わり、全部のどこが一番面白かったか問いかけたところ、全部を選択した児童が多かったため、あえて順番を意識させる必要はないと感じた。

授業実践②第2学年（桜台小学校）

題材名「いい音を見つけて きこう」（2時間）

教材名「ゆかいな時計」アンダソン作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「ゆかいな時計」の音色やリズムの繰り返しに気付く。 ・曲の気分を感じ取りながら聴く。 ・感じ取ったことや聴き取ったことを短冊に書く。 ・規則的なウッドブロックのリズムやその変化に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々に自由に感じ取る。 ・曲名を提示せずに聴く。 ・気付きや感じたことを短冊に書き、黒板に貼り、友達と考えを共有する。 ・特徴的な楽器の音色に合わせて体を動かす活動により、それらのリズムやその変化などに気付きやすくする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○曲全体から想像したことや感じたことをワークシートにまとめる。 ・特徴的な楽器の音色を聴き取って体で表現し、その面白さを感じ取る。 ・曲全体の流れや特徴的な楽器の音色を確認し、想像したことや感じ取ったことをワークシートにまとめる。 ・いろいろな友達に自分の書いたことを伝え、お互いに交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○曲全体の構造を視覚的にわかりやすくする。 ・児童の発言内容、特徴的な楽器の写真などを曲の流れに沿って整理する。 ・掲示資料をもとに、想像したことや感じ取ったことをまとめる。 ○友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりする。 ・友達と交流しお互いに伝え合う。

【仮説1】について

○導入の「冬の歌」では、音楽を形づくっている要素である音色、速度、リズムに違いのある伴奏を聴いて様子を想像する活動を、また「ゆかいな時計」では楽器の音色を聴き取る活動を行うことで、楽器の音色の特徴やリズムの繰り返し、変化に気付くことができた。

○楽曲の流れに沿ってどの部分が演奏されているのかそれぞれ色別に囲み、ワークシートにも同じ色の印をつけたり、掲示物に楽器の写真を貼ったりしたことで、楽曲全体の音楽の仕組みをわかりやすくとらえることができた。

△音楽に合わせて体を動かす活動では、教師がどこの部分の何を感じ取らせたいか（聴き取らせたいか）を明確にし、ねらいに沿って表現している児童の動きを紹介するなど、他の児童が気付くようにすることが大切である。

△楽曲全体の流れを示す掲示物は、何を中心に聴き取らせたいか授業のポイントを絞ったねらいにまとめ、わかりやすくするほうがよい。

【仮説2】について

○児童の気付きや感じ取ったことを音楽を形づくっている要素ごとにまとめて紹介したことで、友だちの感じ方に気付くことができた。

△聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけて記入できなかった。ワークシートの中で児童の気付きの変容がわかるような工夫が必要。

授業実践③第3学年（大山口小学校）

題材名 楽きの音色や曲の流れをとらえてきこう（4時間）

教材名 「メヌエット」 ビゼー作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	○「メヌエット」の曲想を感じ取って聴く。 ・曲名を知らせずに、自由に体を動かしながら聴く。 ・感じ取った雰囲気、イメージなどをワークシート（新聞）に書き、発表する。	○曲想を感じ取りやすくする。 ・旋律の流れや音の高低に合わせ、手などを動かしながら楽曲を聴く。 ・単元を通して1枚のワークシートが書き進むように新聞形式のワークシートを使用する。
2	○「メヌエット」の旋律に着目して聴く。 ・だんだんたくさんの楽器が加わり、音色や音量が変化していることや最後は、だんだん楽器が減っていき、速度も遅くなっていくことに気付く。 ・楽曲全体を聴きながら、楽曲の特徴や感じ取ったことをワークシート（新聞）にまとめて、グループでワークシートに記入したことを発表し合う。	○曲の構成や特徴について確認しやすくする。 ・曲の特徴が分かるような掲示物を大きく作って確認する。 ○他の意見に気付き考えようとする態度を育てる。 ・グループ（4・5人）で自分の感想や気付いたことを伝え合い、友達の意見を聴いて自分とは違う意見をワークシートにメモをとる。

【仮説1】について

- 授業の導入で、題名を伏せて短い楽曲を鑑賞し、「どんな感じがしたか。」「なぜ、そのような感じがしたのか。」などワークシートに記入し発表した。曲名の予想も行い、クイズ感覚で楽しみながらたくさんの楽曲に触れることができた。
- 歌唱曲や器楽曲を扱う授業でも曲の特徴を捉えることを意識するように既習後に〔共通事項〕別に曲名を記入して積み重ねられるワークシートを使用した。
- △掲示物をABAに色分けし大きく作成したが、記載内容が分かりやすくなかった。音楽を形づくっている要素が目で見えて分かるものを作成する必要がある。
- △音楽に合わせて体を動かす活動では、ルールを決めて行う必要がある。
例：動く位置(曲のどの部分なのか)を絞って感じ取らせたいことを教師が意図して行う。
一人で動かかグループで動かか指示を出す。違いが分かるような動きを促す。

【仮説2】について

- ワークシートを新聞形式にし全体で共有し合うことを児童に伝えたことにより、友達に伝えるという意識が高まった。
- △ワークシートを大きな枠で仕切ったので3年生が書くには難しかった。感じたこと・気がついたことなどポイントを絞って目的をもてるとよかった。
- △最後は「友達にすすめたいこと」でまとめるとよい。

授業実践④第4学年（白井第三小学校）

題材名 「曲の流れを感じ取り、全体を味わってきこう」（3時間）

教材名 「ノルウェー舞曲 第2番」 グリーグ作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	○曲全体を聴き、特徴を見つける。 ・音楽の速度や強弱に合わせて歩いたり止まったりするなどして曲想が変化していることに気付く。 ・曲全体が「始め、中、終わり」の構成になっていることを確認する。	○曲想の変化に気付きやすくする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・付せんに感じたこと、気付いたことを書き、曲のどの部分のことなのか明らかにする。
2	○「始め、中、終わり」の特徴の変化に気を付けて聴く。 ・グループで、速さや強弱が変わったことで曲の雰囲気はどのように変わったかを話し合う。 ・「始め、中、終わり」の特徴を拡大ワークシートにまとめる。 ・それぞれの特徴を確認しながら曲全体を聴く。	○曲の変化に気を付けて聴く。 ・付せんに書いたことをもとにグループで話し合う。 ・同じような考えをまとめ、よさや面白さを共有できるようにする。
3	○曲全体の特徴や感じ取ったこと、想像したことをまとめる。 ・紹介文にまとめる。 ・紹介文を発表し合い、友だちと意見を交差するなどして、曲のよさに気付く。 ○曲全体のよさを味わって聴く。	○曲全体の流れが分かるようにする。 ・「始めは…」「中は…」「終わりは…」と書き出しの言葉を例示する。 ○友だちの意見からさらに気付きや考えをもつ。 ・友だちと紹介文を発表し合い意見を交差したことで、改めて気付いたことなどを書き留めるようにする。

【仮説1】について

- 曲の速度や強弱の変化に合わせて体を動かしたことで、その特徴に気付くことができた。
- 「始め、中、終わり」の雰囲気と【共通事項】が見て分かる掲示物で曲の流れや特徴をとらえることができた。
- △知覚と感受の板書の仕方等、工夫が必要である。

【仮説2】について

- 「始めは」「中は」「終わりは」「一番のお気に入り」は」と書き出しの文を与えることで流れを意識した紹介文を書くことができた。
- 友だちと自分の文と比べることで、曲のよさや面白さをより深く味わうことができた。
- △書く内容が多く、文を書くことに苦手意識をもっている児童には負担が大きい。実態に合わせた複数のワークシートを用意したり、相手意識をもたせたりするなどの手立てが必要。

授業実践－⑤第5学年（七次台小学校）

題材名 曲のおもしろいところを見つけて聴こう（3時間）

教材名 「つるぎのまい」 ハチャトゥリアン作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	○「つるぎのまい」を聴き、曲想の変化、曲の特徴による面白さを感じ取る。 ・同じ旋律が反復され、曲の流れが A-B-A になっていることに気付く。 ・曲想や主な楽器の音の変化に気を付けて体を動かしながら聴く。	○曲の変化や特徴を感じ取りやすくする。 ・「始め、中、終わり」の曲の構成を意識して板書する。 ・演奏している楽器について聴き取ったことを板書し演奏の流れを視覚的にわかりやすくする。
2	○曲の構造に気を付けて聴く。 ・同じ速度で演奏していることに気付く。 ・拍子に変化していることに気付く。 ・曲のよいところやおもしろいところを音楽リーフレットに記入し、その中から自分にとって一番おすすめのところを選び、その部分の紹介文を書く。	○音楽に合わせて体を動かしながら鑑賞し、曲の流れをつかむ。 ・曲の構造がわかるように、前時の板書に伴奏楽器の流れを付け加える。 ・板書や今まで学習してきたことをヒントに記述する。
3	○「つるぎのまい」のよさや面白さを伝え合う。 ・前時に作成した音楽リーフレットを使って一番おすすめのところが同じ部分になった友達や違う部分になった友達と交流し、感じたことを伝え合う。 ○「つるぎのまい」を味わって鑑賞する。 ・この曲の一番おすすめのところを記入する。 ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いから生まれるよさや面白さを味わって聴く。	○感じ取ったことを伝え合いやすくする。 ・なるべく多くの児童に自分の感じたことを伝えたり、友達の感じたことを聞いたりすることができるよう支援する。 ・様々な感じ方を紹介する。 ・学習のまとめとして鑑賞する。

【仮説1】について

○導入で他の楽曲（「タイプライター」「幸せなら手をたたこう」）に合わせて体を動かすことで、「つるぎのまい」でも合いの手のよさや面白さを感じ取ることができた。

△曲の構成がわかるように色分けした掲示物の中に旋律・音色・拍子・速度・曲の感じを書き込むと曲全体の流れがとらえやすくなる。

【仮説2】について

○2～3人の少人数で交流をしたので、伝えることが苦手な児童も話しやすくなった。

○曲の一番おすすめなところを伝え合う活動では、まず自分と同じ部分について書いた友達と交流することで、様々な感じ方があることに気付くことができた。その後、自分と違う部分について書いた友達と交流し、曲の新たな魅力を発見することができた。

△友達のリーフレットから学んだことを〔共通事項〕ごとに整理し板書するとよかった。

授業実践—⑥第6学年（南山小学校）

題材名 曲の特徴を感じ取り，曲のよさを味わって聴こう。（3時間）

教材名 「ハンガリー舞曲 第5番」 ブラームス作曲

指導計画（学習内容と主な活動のみ抜粋）

時間	○学習内容 ・主な活動	○ねらい ・手立て
1	○曲全体を聴き，感じをつかむ。 ・感想や気付いたことを記入する。 ・2人組で 手合わせをしながら鑑賞 し，速度や強弱の変化に気付く。 ・感想や気付いたことを記入し，確かめながら鑑賞する。	○曲全体を感じ取る。 ・初めの感想や気付いたことを記入する。 ・ 手合わせをしながら聴き ，曲の特徴に 気付きやすく する。
2	○曲の特徴を感じ取って聴く。 ・ 曲に合わせて，体を動かす 。 ・曲の特徴や気付いたことについて グループ（6人）ごとにワークシートにまとめる 。 ・グループで曲の特徴について確認し，映像で鑑賞する。	○曲の特徴を感じ取りやすくする。 ・ 曲に合わせて体を動かすこと で「始め，中，終わり」の形式やその特徴を感じ取り，ワークシートに記入する。 グループで話し考えること で，さらに考えを深める。
3	○曲を通して聴き，自分の感じる曲のよさや面白さについてワークシートにまとめる。 ・曲のよさや面白さをワークシートに記入する。 ・ 友達と書いた内容について伝え合い，友達の内容を読んで気付いたことを記入する 。 ・伝え合ってどう思ったか，発表し合う。 ・最後に全員で鑑賞をする。	○友だちの感じ取ったことを共有し，自分の考えを深める。 ・全体の掲示物に自分の選んだ場所に付箋を貼り， 同じ場所を選んだ人と伝え合ったり，違うところを選んだ人と伝え合ったりして ，それぞれの考え方を共有する。 ・友だちの考えを聞いて感じたことをまとめる。

【仮説1】について

○同じ「始め，中，終わり」の形式を意識するため4年生で学習した「ノルウェー舞曲」第2番をもう一度鑑賞したり，同じ形式の歌の曲を取り入れたりしたことにより，曲の特徴に気がつけるようになってきた。

△曲の流れがわかりやすい掲示物にするために，あまり細かく書きすぎないことや色分け，写真の使用など，内容を精選してすぐ見てわかるものになるよう工夫していきたい。

【仮説2】について

○曲の流れが分かる掲示物を見ながら，より面白いと感じたところに付箋を貼ったり，書いたものを互いに読み合ったりする活動を通して，友達との共通点や相違点に気付き，友達の考えを認め合うことができた。

△〔共通事項〕の言葉を普段から教師から使うようにすることで児童に身近な言葉になるようにしていくとよい。

△語彙が少なく書くのが不得意な児童に言葉のヒントカードなどを用意するとよい。

研究Ⅰ（平成29年度）の成果と課題を受けて、目指す児童像にさらに近づけるような授業内容になるように取り組んだ。

- 【仮説1】 感じ取ったことを曲の流れの中で明確にすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いに気付き、曲全体を味わうことができるだろう。
- 【仮説2】 友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりする言語活動を工夫すれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう。

研究Ⅰで成果があったと思われる活動や手立てを積極的に取り入れた。

※仮説1に関わる活動や手立ては**ゴシック正体**で、仮説2に関わる活動や手立ては**ゴシック斜体**で示してある。

○曲の特徴が視覚的に理解しやすいような工夫。	・「始め、中、終わり」を色分けすることで始めと終わりが似ていることを理解する。
○曲想の変化が視覚的に理解しやすいような工夫。	・強弱や速度の変化の様子を線描で表すことで曲想の変化に気付きやすくする。
○曲の特徴を意識しやすくするために、同じ形式の歌や曲を取り入れる工夫。	・同じではないが「トルコ行進曲」（ベートーベン作曲）の形式と比較することで三部形式を理解する。
○付箋を活用し書く時間を短縮する工夫。	・付箋の代わりに小さいカードにして書く時間を短縮→ カードをそのまま新聞の作成に生かす。
○「伝える」意欲を高めるための工夫。	・あとで読み合うことを前提に、 グループで一つの新聞を作成する。
○音楽を特徴づける要素に気付きやすくするための工夫。	・強弱や速度の変化など気を付けるポイントを明確にしたうえで、 音楽に合わせて体を動かすようにする。
○他の考えも取り入れ、自分の考えに自信がもてるようにするための工夫。	・他のグループの新聞を見るときに、自分と似ている考え、違う考えをメモしながら見る。

研究 I で課題となった事柄について改善を試みた。

<p>△語彙が少なかったり、人前で話すことに苦手意識をもっていたりする児童への支援。</p>	<p>・友達同士で教え合ったり、人前で話す抵抗感をできるだけ少なくしたりするために少人数でのグループ活動を取り入れる。(3～4人)</p>
<p>△聴き取ったことと感じ取ったことの区別。</p>	<p>・聴き取ったことについては全体やグループで確認し合い、感じ取ったことについては個々でカードに記入した内容を伝え合う。</p>
<p>△曲の流れがわかりやすい掲示物にする。</p>	<p>・この曲で聴き取って欲しい音楽的な要素のみに絞って書き込んでいく。</p>

第4学年1組 音楽科学習指導案

指導者 井上亜希子
 展開場所 音楽室

- 1 題材名 曲のよさを見つけて、全体を味わってきこう 3時間扱い
 教材名 「ノルウェー舞曲 第2番」 グリーグ 作曲 (鑑賞)

2 題材について

(1) 題材観

学習指導要領とのかかわり

第4学年 B 鑑賞 (1) イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付く。

〔共通事項〕 ア (7)旋律 速度 強弱 音色 (イ)反復 変化

本題材は、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取ったり、楽曲の構造に気を付けたりしてそのよさや面白さを見いだしながら、楽曲全体を味わって聴くことをねらいとしている。

中学年では、低学年で身に付けた鑑賞の能力を基にして、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴くこと、また音楽を形づくっている要素のかかわり合いや楽曲の構造に気を付けて聴き、楽曲全体のよさや面白さを見いだしながら聴く喜びを味わうようにすることが重要となる。そのために、楽曲を聴いて感じ取ったことや想像したことを体の動きや言葉で表したり、気づいたことを友達と伝え合って考えを深めたりしながら楽曲のもつ魅力を味わわせていくことが大切である。

(2) 児童の実態 (男子14名 女子18名 計32名)

※うち女子1名は特別支援学級在籍にて音楽の授業には参加しないため31名に調査を実施。

本題材を指導するにあたり、次のような実態調査を行った。

	項目	回答	人数 (名)
①	音楽をきくことは好きですか。	好き ふつう あまり好きではない	() () ()
②	音楽に合わせて、体を動かすことは好きですか。	好き ふつう あまり好きではない	() () ()
③	音楽を聴くとき、どんなことに気がつくことが多いですか。(複数回答)	音色 旋律 速度 強弱 リズム 曲の雰囲気	() () () () () ()
④	音楽を聴いて、自分がよいと思うところや面白いと思うところを見つけることはできますか。	よくできる 少しできる あまりできない	() () ()
⑤	音楽を聴いて、自分が面白いと感じた理由を言葉で伝える(書いたり話したりする)ことはできますか。	よくできる 少しできる あまりできない	() () ()
⑥	友達と一緒に音楽を聴いたときに、どこが面白かったか聞いてみたいと思いますか。	とても思う 少し思う 思わない	() () ()
	どうしてそう思いますか。		

⑦	とても思う () ・ 少しそう思う () 友達がどう思ったのか知りたいから。違う意見が聞けると面白い、楽しいから。 友達と自分の考えが同じかそうでないか知りたいから。 自分が思った通りかどうか知りたいから。 色々な感じ方を発見したいから。自分の考えに付け足しできるから。 友達の意見を聞いて考え直すことがあるから。 友達にも音楽は楽しいことだとわかってほしいから。			
	あまり思わない () 自分がどのように思っているかがわかればよい。 自分がその音楽のよさを見つけられなかったら嫌な気持ちになるから。			
	「トルコ行進曲」の感想 (記述式)	【共通事項】	人数 (名)	割合 (%)
感受していること	強弱	()	()	
聴取していること	曲想	()	()	
	音色	()	()	
	旋律 (AとB)	()	()	
	反復	()	()	
	速度	()	()	
	変化	()	()	

本学級は子どもらしく活気のある児童が多く、音楽科の学習にも概ね意欲的に取り組んでいる。音楽に合わせて体を動かすことを好み、3年生のときには「茶つき」や「十五夜さんのもちつき」の歌に合わせた手遊びに喜んで取り組んできた。

実態調査の結果からは、音楽を聴いて自分なりによさや面白さを見つけることはほとんどの児童ができると感じているが、それを言葉で書いたり友達に伝えたりすると少し自信がもてない様子が見える。しかし、友だちと一緒に音楽を聴いて、どこが面白かったか相手の感想を聞いてみたいという積極的な考えをもつ児童は多い。「友達の考えは聞いてみたい、でも自分の考えを伝えられるかはちょっと心配…」という現状をふまえ、どの児童も自分なりに見つけた音楽のよさや面白さを言葉にできるような支援が必要である。

「トルコ行進曲」の鑑賞では、多くの児童が強弱の変化に気付くことができた。強弱は中学年の児童にとって聴き取りやすい要素であることがわかる。強弱以外の音楽を特徴づける要素についても、より多くの児童が気づけるように、いろいろな楽曲を聴きながら確かめさせていくことが必要である。

(3) 指導観

本題材では、「ノルウェー舞曲 第2番」を教材として取り上げる。

「ノルウェー舞曲 第2番」はA・B・Aの三部形式になっており、Aの部分の穏やかな旋律と、Bの部分の激しく速い旋律の違いがはっきりしていて、反復と変化が聴き取りやすい楽曲である。AからB、BからAへの急激な変化の面白さも感じ取りやすい。また、Aの部分ではオーボエのソロで演奏される部分もあり、楽器の音色にも親しみながら聴くことができる。以上のことから、子どもなりにこの楽曲の聴きどころについて考え、聴く喜びを味わうことができる教材である。

児童には、まず楽曲全体を聴かせ、音楽に合わせて体を動かすことを通して曲の特徴をつかませる。体を動かすことで、この曲がA・B・Aの三部形式であることや、速度や強弱が変化することの面白さに気付くことができると考える。体を動かして気が付いた楽曲の構造や、音楽を特徴づける要素の激しい変化により感じ取ったことなどは個人でカードに書き、3～4人グループで考えを交流する。交流後、個人のカードはグループで1枚の大きな紙に貼る。この活動を何回か繰り返し、学習の最後には、その大きな紙が「グループ新聞」となり友達と交流しながら音楽を聴き味わった記録として残るようにする。グループで活動し交流する時間を十分にとることで、「自分が曲のよさを見つけられなかったらどうしよう」「自分の考えに自信がない」と感じている児童でも友達の考えを聞きながら自分の考えをもてるようにしていきたい。

また、グループで交流したことを全体で共有する際には、曲のどの部分のことを話しているのか、音楽のどんな要素について話しているのかを確認しやすくするために、曲の流れが目で見えてわかるような掲示物を用意して、曲の構造の理解を助けられるようにする。

最後には互いの「グループ新聞」を見合う。「やっぱりそう感じたよね、同じだね!」という喜び、「へえ、そのことには気づけなかったよ!」という驚きを味わうことによって、音楽を聴くことの楽しさ、友達と交流することのよさを感じさせたい。

音楽を聴いて感じ取ったことや、自分で見いだしたよさ、面白さを伝え合い共感するなどの

活動は、新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」につながっていくと考える。児童相互が音楽及び言葉でかかわり合いながら考えを深め曲全体を味わって聴けるようにしていきたい。

3 題材の目標

- 速度や強弱の変化による面白さを感じ取りながら、楽曲の構造をとらえ、全体を味わって聴く。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとする。	①旋律、速度、強弱、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。 ②曲想とその変化や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	ねらい ○学習内容・学習活動【共通事項】	・教師の働きかけ ◇評価規準【評価方法】
第一次	ねらい：音楽を形づくっている要素を手がかりに、曲の構造をとらえ、全体を味わって聴く。	
	第1時 ○「ノルウェー舞曲 第2番」を楽曲全体を通して聴く。 ・楽曲全体を通して聴き、気が付いたことを話し合う。 ○楽曲の特徴を見つける。 ・ 音楽の速度や強弱の変化に合わせて歩いたり止まったりする、スカーフを動かす などして曲想の変化に気付く。 ・ 同じ旋律の時には同じ体の動きをする。 ○ 個人のカードにわかったこときまじめ、グループ内で交流する。 ○全体で楽曲の構成を確認する。 [速度] [強弱] [変化] 速度や強弱が急激に変化する面白さを感じ取る。 [旋律] [反復] 「始め」「終わり」の旋律が同じであることに気付く。	・曲想の変化について気付いたことを自由に発表させる。 ・楽曲の速度や強弱に合わせて体の動きを変えることで曲想の変化を確認させる。 ・グループごとに活動することで、体をどう動かしてよいかわからない児童も友達の真似をしながら動けるようにする。 ・「始め」と「終わり」部分は同じ旋律が現れることを確認し、「始め」「中」「終わり」(A-B-A)の構成になっていることを確認する。 ・楽曲の構成と曲想の変化についてわかったことをまとめる。 楽曲の構成は色で、曲想の変化は線でその変化が目で見分かるようにする。 ・個人のカードをグループ新聞に貼りながら 自分と友だちのカードを見比べ、楽曲の構成を再確認する。 ◇(関一①) 楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 【活動の様子の観察 発言の内容】


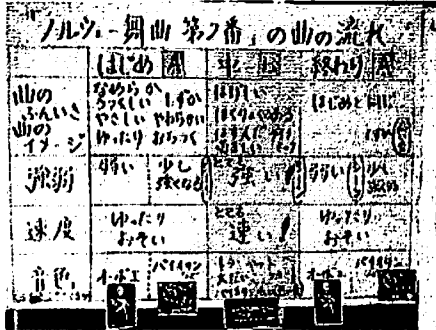
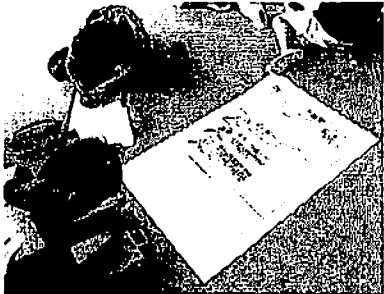
<p>第2時</p>	<p>○グループで楽曲に合わせて体を動かす。</p> <p>○「始め」「中」「終わり」の特徴の変化に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーボエの音色について知り、「始め」「終わり」ではオーボエとオーケストラが同じ旋律を繰り返し演奏していることに気付く。 ・音楽を特徴づけている要素がどのように変化したかをグループで確認し、そのことによりどんなことを感じたか個人のカードにまとめグループ内で交流する。 ・全体で気付いたことや感じたことを共有する。 <p>【旋律】【音色】【反復】 「始め」と「終わり」の部分でオーボエとオーケストラが同じ旋律を繰り返していることに気付く。</p> <p>【速度】【強弱】【変化】 速度や強弱の変化によって楽曲の雰囲気が大きく変わること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い出して体を動かすようにさせる。 ・オーボエ役、オーケストラ役に分かれて体を動かし旋律を演奏する楽器が交代していることに気づかせる。 ・楽曲のどの部分のことなのか確認しながら書くようにさせる。 ・個人のカードをグループ新聞に貼り、それぞれの気づきや感想を発表し合って交流する。 ・何人かに発表させる。 <p>◇（鑑一①）旋律、速度、強弱、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。 【活動の様子の観察 記述内容】</p>
<p>第3時・本時</p>	<p>○グループで楽曲に合わせて体を動かす。</p> <p>○個人のカードに、自分が一番面白いと感じたところ一番気に入ったところについて書く。どうしてそう思ったかも書く。</p> <p>○グループ内で交流する。</p> <p>○他のグループの新聞を見てまわる。 ・簡単にメモしながら見る。</p> <p>○全体で気付いたことや感じたことを共有する。</p> <p>○楽曲全体の特徴や演奏のよさを味わう。 ・楽曲全体を通して聴き、全体の特徴や演奏のよさを味わう。</p> <p>【旋律】【速度】【強弱】【音色】【反復】【変化】 ・音楽を形づくっている要素のかかり合いから生まれる音楽のよさに気付いて味わって聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を思い出して体を動かすようにさせる。 ・楽曲や演奏の部分的なよさだけでなく、全体の流れを聴いたうえでのよさにも目を向けるようにさせる。 ・思いつかない児童には前時に書いたカードの内容のなからもう少し詳しく書けそうなものを選んで書いてみるように伝える。 ・個人のカードをグループ新聞に貼り、発表させる。 ・自分の考えと似ていても違っていても共感的に話を聞くようにさせる。 ・自分の考えと似ていたか違っていたかを簡単にメモしながら見て回る。 ・何人かに発表させる。 ・体は動かさないで聴くようにさせる。 <p>◇（関一②）想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気づいて聴く学習に進んで取り組もうとする。 【活動の様子の観察 発言の内容】</p> <p>◇（鑑一②）曲想とその変化や音楽を形づくっている要素のかかり合いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。 【活動の様子の観察 記述内容】</p>

6 本時の指導 (3/3)

(1) 本時の目標

- ・自分で見つけた楽曲のよさや面白さを友達と伝え合うことを通して、楽曲全体の特徴やよさに気づく。

(2) 本時の展開

過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動 「発問」『予想される児童の様子』	・教師の働きかけ ◇評価【評価方法】	〔共通事項〕の扱い
	5	○学習の雰囲気をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「今月の歌」を歌う。 ・「トルコ行進曲」に合わせてグループで体を動かす。 	〔旋律〕 〔速度〕 〔強弱〕 〔音色〕
	5	○「ノルウェー舞曲第2番」を体を動かしながら聴く。 ・グループで音楽に合わせて動き楽曲全体の特徴を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起させ、音楽を特徴づける要素の変化に気づけながら動くようにさせる。 ・前時までに曲の流れを確認してきた掲示物を示して、学習してきたことを想起させる。 	〔反復〕 〔変化〕 曲想の変化に合わせて動き方を工夫する。
				
めあてをもつ	5	○本時のめあてをつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>この曲のいちばん好きなところを友だちに伝えよう。</p> </div>	
見通しをもつ	10	<p>○楽曲全体の流れのなかから、自分が一番「好き」だと思うところを個人のカードに書く。</p> <p>「この曲の、自分が一番好きだと思うところについて書きましょう。好きな理由についても書きましょう。」</p> <p>「始め、中、終わりの言葉をつかうと相手に伝わりやすいね。」</p> <p>『中で急に速くなるところがびっくりして面白い。』</p> <p>『中と終わりの間にあるしーんとした部分がこれからどうなるのだろうとワクワクして好き。』</p> <p>『終わりのとき、始めと同じ音楽に戻るのがなんだかうれしくて好き。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構造を意識しながら書くために、「始め、中、終わり」の言葉を用いて書くようにさせる。 ・思いつかない児童には前時に書いた内容のなかからもう少し詳しく書けそうなことを選んで書いてみるように伝える。  <p>◇(鑑一②) 曲想とその変化や音楽を形づくっている要素のかかわり合いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</p> <p>【活動の様子の観察 記述内容】</p>	〔旋律〕 〔速度〕 〔強弱〕 〔音色〕 〔反復〕 〔変化〕 音楽を形づくっている要素のかかわり合いから生まれる音楽のよさに気付く。

考えを深める

10

○書いたことをもとに**友達と交流する**。

「自分の考えと友達の考えは似ているかな。違うかな。」

『私と〇〇さんの考えは似ている考えだ。なんだか嬉しいな。』

『〇〇さんの好きなのところは私と



5

○他のグループの新聞を見て回る。



振り返る

5

○学習のまとめをする。

・友達との交流を通して、気付いたこと感じたことを発表する。

『自分と似ている考えの友達がいたので嬉しかったです。』

『〇〇さんの好きなのところをきいてみたいです。』

・楽曲を通して聴く。

・個人のカードをグループ新聞に貼ってから**交流する**。

・自分の考えと似ていても違っていても**共感的に話を聞く**ようにさせる。

◇ (関-②) 想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとする。

【活動の様子の観察 発言の内容】

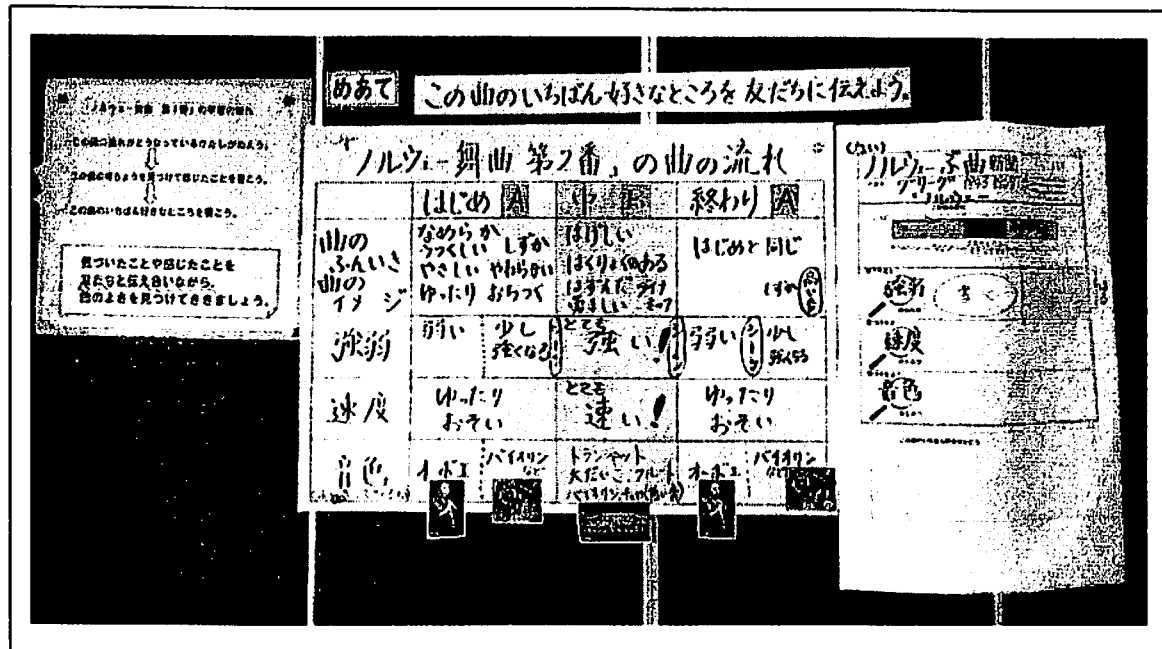
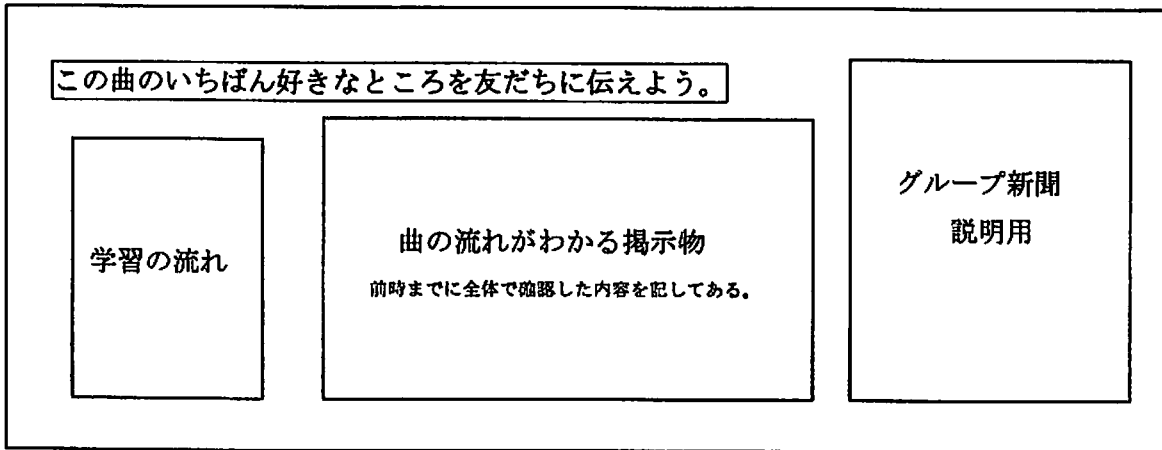


・自分の考えと似ていたか違っていたかを簡単にメモしながら見て回る。

・何人かに発表させる。

・体は動かさずに聴くようにさせる

(3) 板書計画



(4) 本時の評価と教師の働きかけ

「十分満足できる」状況 (A) と判断される児童の学習状況
音楽を形づくっている要素など音楽的な理由を伴いながら自分なりに見いだした楽曲のよさについて考えを書き、友達に伝えようとしている。
「努力を要する」状況と思われる児童への手立てや働きかけ
書くのが難しい児童には、前時までに自分が書いたことの中から選んでもう少し詳しく書いてみるよう助言する。伝えるのが難しい児童には、教師や友達と一緒に書いたことを読んでみようと呼びかけます。

7 成果と課題

【仮説1】について

感じ取ったことを曲の流れの中で明確にすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いに気付き、曲全体を味わうことができるだろう。

- 視覚的に理解しやすくなるように工夫をした掲示物やワークシート（今回の場合はカード）を用いることで、音楽を特徴づける要素の変化について確認することができた。
- 曲の形式を感じ取るために「同じ旋律の時は同じ色で塗る」活動をした。同じ旋律でも繰り返されたときに強弱が変化していることに気付き、弱いときは薄く、強いときは濃

く塗り分ける工夫を思いついた児童もいた。その工夫は同じグループの友達に自然と広まっていった。グループ活動のよさである。

○曲想の変化をとらえるために、「強弱や速度の変化に合わせて線を描く」活動をした。「心電図みたい」と喜びながら、穏やかな曲想と激しい曲想の違いを感じ取り表すことができた。

○音楽に合わせて体を動かす活動では、同じ旋律の時には同じ動きをする約束を決めて曲の形式を意識しながら動くことができた。繰り返して強弱が変化するときには動きの大きさを変えて表現しようとしていた。

△色塗りや線描で音楽の特徴をとらえる活動は、一人一人の感じ取る力の違いがあり容易ではない。まずはグループで取り組み教え合いながら経験をつんでいくとよい。

【仮説2】について

友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりする言語活動を工夫すれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう。

○個人で書いたカードを貼ってグループの新聞をつくる活動は、書くことがあまり得意でない児童でも①一人が書く分量が多くないこと②最後には友達のカードと合わせて新聞ができあがること、などの面から達成感を得やすかった。

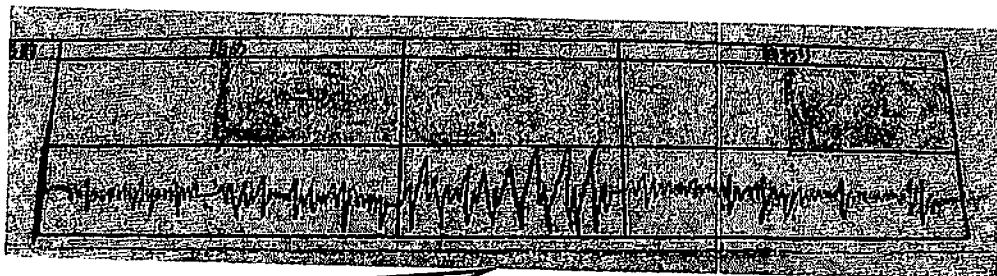
○新聞を囲んで指さしながら少人数で伝え合う活動は、気軽に話せる雰囲気があり、話すことが得意でない児童にとっても取り組みやすかったと思われる。

△さらなる学びの深まりのために、教師が思考を深める指導を設定する必要があった。

例えば、①カードの内容のよいところに朱線を引いたり花丸をつけたりして、他の児童が見たときに共有しやすくする②漠然とした表現に対し追求する。「(「りっぱな音」の「りっぱ」とはどういうこと? 「いろいろな音」の「いろいろ」って何? など)

△個人が書いたカードはすべて新聞に貼ってしまうため、個人の手元に学習の記録が何も残らない。→新聞の写真を撮ってプリントアウトしたものを返すなどの工夫が必要。

△どのような伝え合い活動が有効かは、日頃学級でどのような伝え合い活動が行われているかによる。担任に相談しながら実態に応じて進めることが必要である。



曲の流れを色の塗り分けと線描で表した

…「始め」「終わり」では同じ旋律がくり返されているので同じ色で塗ってあるが、強弱の変化を聴き取り色の濃淡をつけて表した。

…「中」の激しい曲想を聴き取り上下に振り幅の大きい線描で表した。

できあがった新聞

曲の流れを色や線描
で表した (第1時)


〔共通事項〕について
全体で確認したことを
各グループの言葉で
まとめた (第2時)

音楽を特徴づける
要素の変化により
個人が感じ取った
ことを書いた
(第2時)

曲の一番好きなところを理由
もあわせて書いた (第3時)

名前()

はじめの前のはじめのオボエが
 はじめの後のほうのバトリン
 になるところが少し音が
 大きくなって少しきこえが
 面白いです。終わりの前の
 うが終わるところと音が
 わったと思えます。曲が
 つづいてくるところ



名前()

はじめは、曲の土まじりほけ
 しに、曲の曲の曲の曲の曲の
 入ら、曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の
 カルトの曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の
 曲の曲の曲の曲の曲の曲の

8 学習後の児童の感想

☆曲をきいて感じたことを友だちと伝え合いながら新聞をつくる学習をしてみて、どんなことがよかったですか。

自分の得意な強弱を書きかきとほめてくれたり、
 受けたらいい人なほ人のせい聞かす
 時間があて読んでもらうの、かしてか
 るんをいて自分のも、すの、かしてか
 友人について自分の、かしてか、よかた
 です。自分の中では音楽の、かしてか、よかた
 せい、勉強にな、かしてか、よかた、かしてか
 べんき、うが、かしてか、よかた、かしてか
 たら、また、かしてか、よかた、かしてか
 にな、かしてか、よかた、かしてか

☆曲をきいて感じたことを友だちと伝え合いながら新聞をつくる学習をしてみて、どんなことがよかったですか。

自分とよかた、かしてか、よかた、かしてか
 友人を見つけたよかた、かしてか、よかた、かしてか
 新しい考えや感じたこと、かしてか、よかた、かしてか
 友だちの、かしてか、よかた、かしてか
 友だちの、かしてか、よかた、かしてか
 友だちの、かしてか、よかた、かしてか
 友だちの、かしてか、よかた、かしてか
 友だちの、かしてか、よかた、かしてか

☆曲をきいて感じたことを友だちと伝え合いながら新聞をつくる学習をしてみて、どんなことがよかったですか。

ほんのお友だちと、かしてか、よかた、かしてか
 くら、かしてか、よかた、かしてか
 と、かしてか、よかた、かしてか
 そ、かしてか、よかた、かしてか
 た、かしてか、よかた、かしてか
 て、かしてか、よかた、かしてか
 考、かしてか、よかた、かしてか
 と、かしてか、よかた、かしてか
 は、かしてか、よかた、かしてか
 た、かしてか、よかた、かしてか

☆曲をきいて感じたことを友だちと伝え合いながら新聞をつくる学習をしてみて、どんなことがよかったですか。

わたしが、かしてか、よかた、かしてか
 い、かしてか、よかた、かしてか
 議、かしてか、よかた、かしてか
 いた、かしてか、よかた、かしてか
 は、かしてか、よかた、かしてか
 言、かしてか、よかた、かしてか
 そ、かしてか、よかた、かしてか
 と、かしてか、よかた、かしてか
 い、かしてか、よかた、かしてか
 を、かしてか、よかた、かしてか

7 研究のまとめ

今回の研究では、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるような指導の工夫に取り組んだ。

【仮説1】 感じ取ったことを曲の流れの中で明確にすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いに気付き、曲全体を味わうことができるだろう」として、楽曲全体の流れをとらえるために音楽に合わせて体を動かす活動や、楽曲の流れや特徴、楽曲の構造が視覚的に理解しやすいような板書や掲示物、ワークシートの工夫に取り組んだ。

児童は音楽に合わせて体を動かすことにより強弱や速度、反復など音楽を特徴づける要素の変化に自然と意識が向くようになった。「音楽が見える」という言葉で児童へ働きかけながら示した板書や掲示物、ワークシートは、全員がその楽曲を共通理解する助けとなり、伝え合い活動へとスムーズにつなげていくことができた。

【仮説2】 友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりする言語活動を工夫すれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう」として、感じ取ったことを言葉に表し、伝え合うためにワークシートの形式や共有のし方の工夫に取り組んだ。

リーフレットや新聞など、他教科で学習した方法を取り入れることで「他者に伝える」意識を持って言葉にする活動ができた。また、友達と交流することを通して楽曲の魅力を再確認したり、新しい魅力を発見する喜びを味わったりすることもできた。

研究を通して【仮説1】の、曲の特徴を感じ取りやすくする手立ての工夫の積み重ねが、児童の曲の聴き方を身に付けていくことにつながるということがわかった。

さらに、【仮説1】が大きな前提となり、【仮説2】が成り立つことが児童の言動や活動、ワークシートの記載内容からわかった。

【仮説2】では、曲の特徴を根拠にした感じ方が身に付いていき、根拠が自分の考えや意見の支えとなって自信が生まれている。そこに伝え合う喜びがあり音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づける重要さがあることが実感できた。

今回の研究の【仮説1】は、印旛音研の30年度研究副主題に大きくつながるものであると考える。今後は、3つの視点から授業改善を進めていきたい。①児童が自身の学びや変容を自覚できる場面②対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面③学びの深まりをつくり出すために児童が考える場面や教師が教える場面。これらを指導計画の中でどのような手立てでどこに位置づけるかといった明確な視点を持ちながら研究を進め、印旛音研の研究主題にさらに迫るために、日頃から意識して授業に取り組んでいきたい。

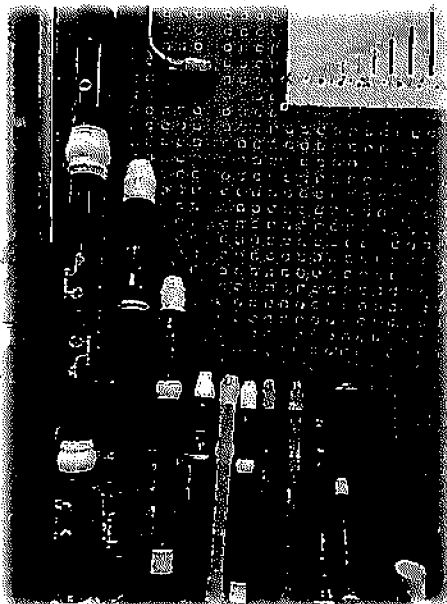
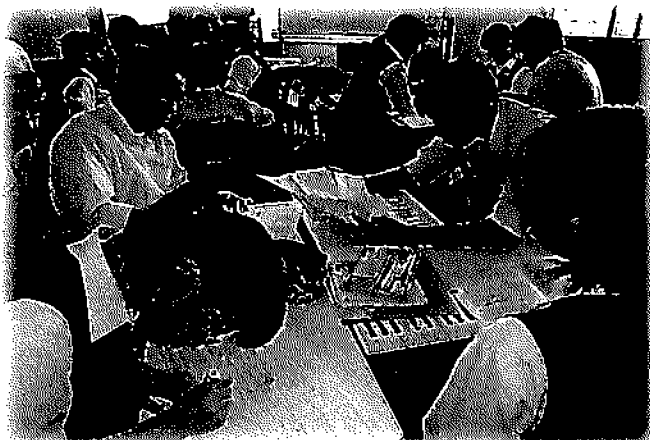
音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう

～音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる
資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

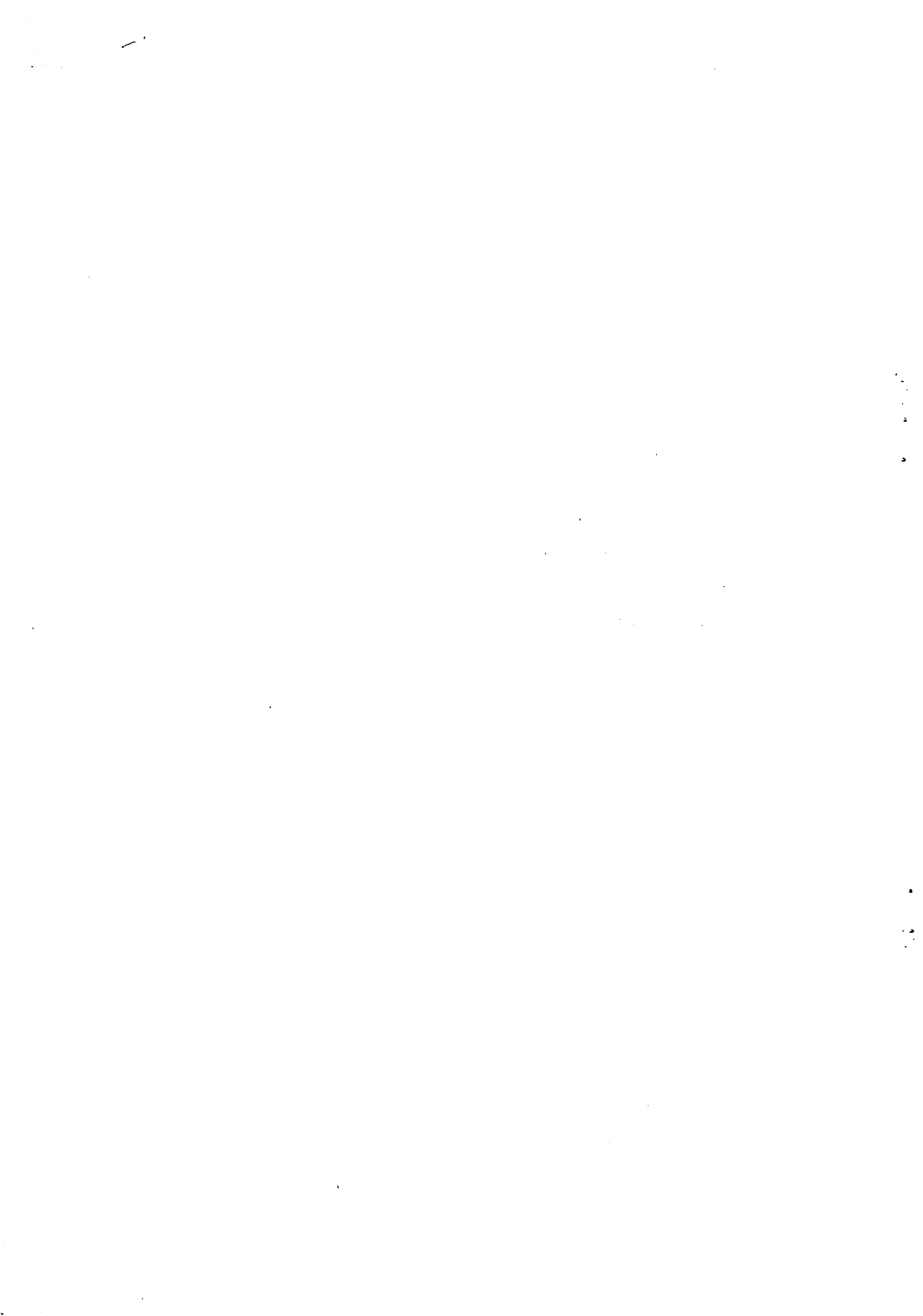
生き生きと表現をする活動を通して、豊かな感性を育てる指導法
～聴き取る力、表現する力を伸ばす工夫～



第4部会

八街市立八街北中学校

赤坂 典子



1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 副主題

生き生きと表現をする活動を通して、豊かな感性を育てる指導法
～聴き取る力、表現する力を伸ばす工夫～

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

中学校学習指導要領音楽科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」である。

ここでは、様々な音楽活動を通して、「感性（価値あるものへの気づき）を豊かにする」「基礎的な能力を伸ばす」ことを大切にしていく。“聴く”（自主的に）ことで美しいものや優れたものに接して感動できる心が育つことを目指す。その価値判断をするうえでも、基礎的な能力として音楽用語や要素を理解して使いこなせるようにしたい。

また、中学校学習指導要領総則において、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、各教科等の指導において言語活動を充実すること、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から言語活動を充実すること、とある。音楽表現においても、自分の思いや考えを「書けない」生徒が文字で表現するため、「書く」ためのヒントやポイントを提示することで、少しでも「書ける」ようになり、文字で表現するよう言語で思考し、それを伝え合うことが豊かな音楽表現につながることを考え副主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

朝暁小学校との1小1中で、小中連携の取り組みにより学習規律も浸透し、授業も落ち着いて臨んでいる。1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、特別支援学級（知的）1クラス、（情緒）2クラスからなる。

教師が求めていることができていない生徒は、話を「聞いていない」ということを3年前に実感した。ワークシートの学習で始めに日付を書くように指示をするが、各クラス7～8人書けていなかった。日付もワーク評価点に加味をする旨を伝えても、1年前で3～4人未記入がいた。現状でも「まず今日の日付、今日は〇月〇日。」と言っても1～2人未記入がいる。教師が理解して欲しくて繰り返し言っているつもりでも、聞いていないという現実がある。どうしたら普通に聞くことが出来て、音楽活動においてより深く味わって聴けるようになるかを考えたい。

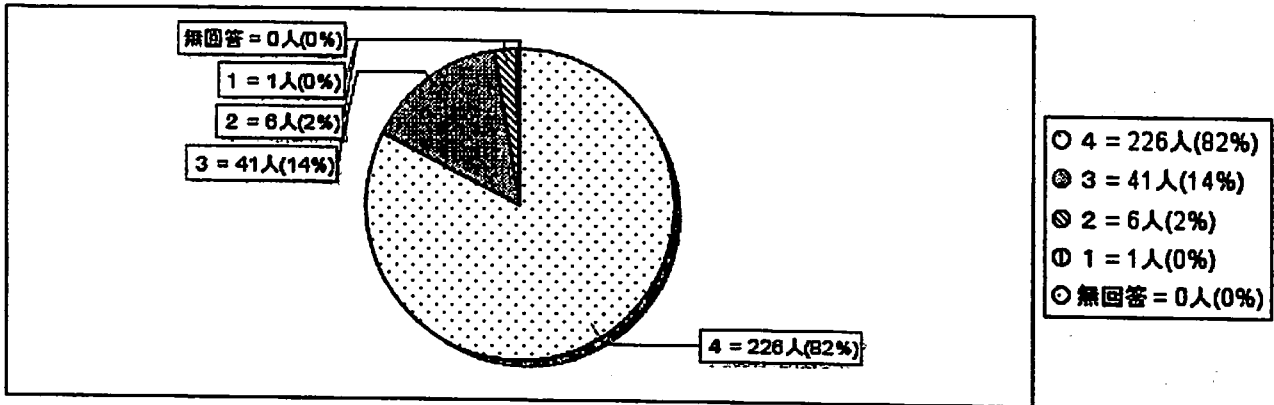
音楽科授業アンケート（平成30年7/3～7/11実施） 1年～3年全クラス（欠席者を除く）

毎学期行われている授業アンケートでは＜先生について＞＜自分について＞＜クラスについて＞を集計している。それより＜自分について＞を引用した。

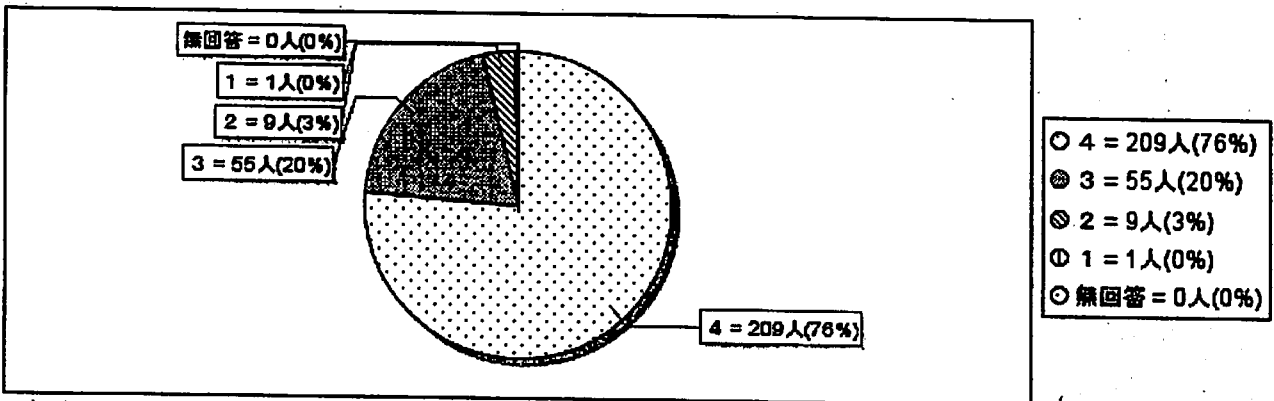
各項目の評価について 「そう思う」・・・4 「大体そう思う」・・・3
あまりそう思わない」・・・2 「そう思わない」・・・1 となっている。

<自分について>

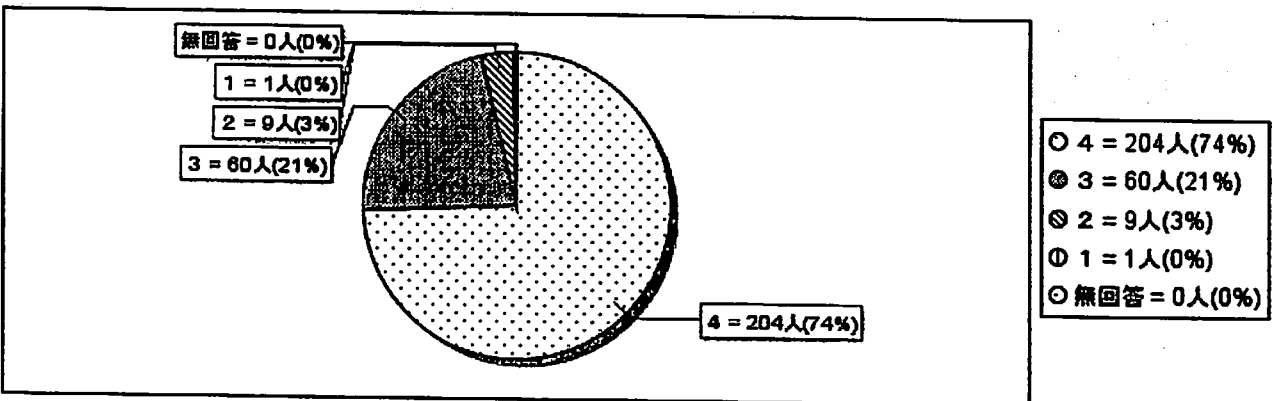
①授業の準備はきちんとできている。



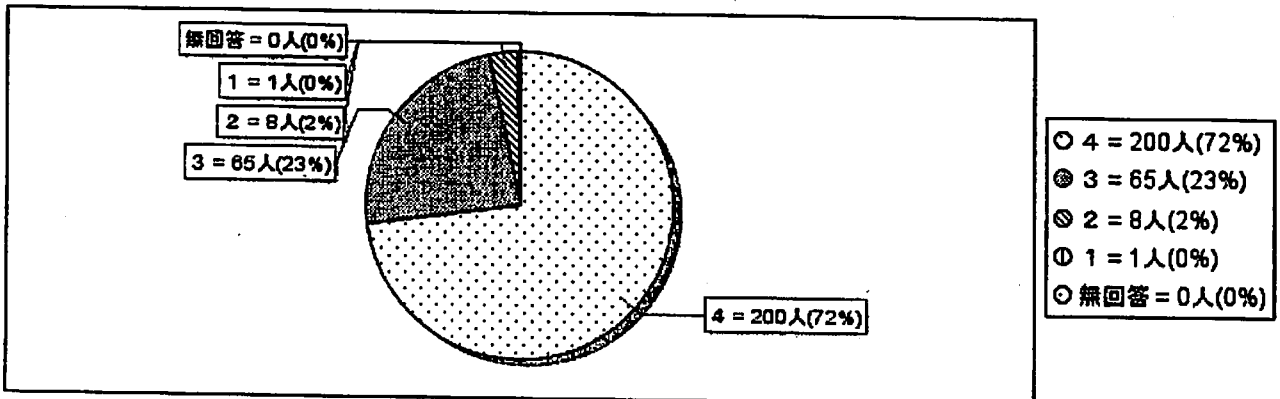
②先生の話や友だちの意見をきちんと聞いている。



③歌うときの姿勢などに気をつけている。(マスクを付けない等)



④鑑賞しているときの私語はないようにしている。



どの項目も自分では出来ていると思っている生徒が多い。確かに忘れ物は少なく、静かに授業に取

り組めている。しかし静かだから聞いている訳ではない。音楽室に入ったらまず聞くことに慣れさせてから、音楽を深く聴き取る力を高めたい考え、仮説を立てた。表現したい思いや意図をもち、要素の働き方を試行錯誤し、よりよい表現方法を見いだして表現させたいと考える。

4 研究仮説

【仮説1】

音楽の要素に気づくための聴く活動を多く行うことで、“音”への興味・関心が高まり、聴き取る力をつけることができるであろう。

【仮説2】

楽曲の分析（アナリーゼ）により、作詞、作曲家の思いや意図、音楽用語などを理解したうえで、楽譜をよく見て演奏をする習慣をつけることが、より深い表現活動につながるであろう。

5 仮説について

【仮説1】について

- ・導入の挨拶「こんにちは」を音の高さ、リズム、音色を変えて模倣する。それを2、3年次では何の音か聴き取り、発表することで、“音”に対して関心が高められると考えられる。
(手立て①)
- ・リコーダーでは、授業の導入で教師の節奏を聴き模倣する。新しく習う音の運指を知ることやリズムを聴き取ることで関心が高められ、聴き取る力がつくだろうと考える。
(手立て②)
- ・曲の聞き比べにより音楽の要素の共通点や相違点を考えることで、鑑賞することへの関心が高められると考える。
(手立て③)
- ・合唱活動で“聴く”時間を設け、音楽を形づくっている要素や要素同士の働きを個で考え、グループで話し合い、クラスで共有するという思考・判断の場をつくり、お互いに聴く力を高めたいと考える。
(手立て④)
- ・音楽を形づくっている諸要素に気づく活動として、日々耳にしていた音楽はどの要素がどのように作用することで、どんなイメージになるのか考えることで音楽を知覚し感受することに関心をもてる。
(手立て⑤)

【仮説2】について

- ・全ての音楽活動でアナリーゼを行うことで音楽用語などへの苦手意識を無くし、扱う楽曲により親しみ、生き生きと表現できるようにする。
(手立て④⑥⑧)
- ・その曲の持つ魅力に気づき、それを生かして表現をしたり鑑賞をしたりする。
(手立て⑦⑧)

6 指導の実践

<手立てその①>

- ・音楽の素材となる“音”に関心を持つことで、授業の導入に聴く習慣をつけたいと考え、4年前から取り組んでいる。(夏季実技研修、筑波大学の先生の指導から取り入れた。)
- 教師の「こんにちは～」の音高、リズム、音色を模倣して「こんにちは～」と返す。2・3年生は4月から音名を聴音し、発表する。1年生は7月より始めの音は何かを聴き取ることをしている。

《その①の考察》

- ・1年生はゲーム感覚でどのクラスも反応がよい。2年生、3年生も比較的聴こうという姿が多く見られるが、各クラス数名ほど人任せな生徒も見られるので、今後全員が指名される緊張感を味わう中で取り組みたい。昨年冬、生徒から「いつもソからですね。」と鋭い指摘を受け、その後いろいろな音から始めた。「今日は暗い気分。」と短調(ミラミラ～など)にしたり、(レラファソ～)と弾いたら「ミステリアス！」など声が飛んだり「ソ」以外を意識している。定着しているので続けていきたいと考える。

<手立てその②>

- ・リコーダー学習では始めに聴奏を行う。必ず“ド”から始める。新しい曲で新しい(初めての)運指のある時はその音を中心に行う。聴奏と言ってもほとんどは教師の指をじっと見て視奏している。

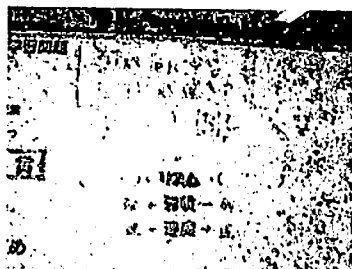
《その②の考察》

- ・聴奏している間は音をよく聴き、模倣しようという姿は見られる。
- ・生徒をリーダーとして聴奏をすることを始めたが、時間がかかりすぎてしまった。授業研で4～5人選んだリーダーを前に並べ、テンポ良くすすめると良いと助言を頂いた。またリコーダーを吹く姿勢もリーダーを前にした方がよくなる。
(生徒がリーダーの時は風車形の机の配置でリーダーの方を向くため体が捻れてしまった。)
- ・生徒がリーダーの時はまだ音数やリズムパターンが少ないので、慣れが必要である。

<手立て③>

曲の聞き比べにより音楽の要素の共通点や相違点を考える。

①



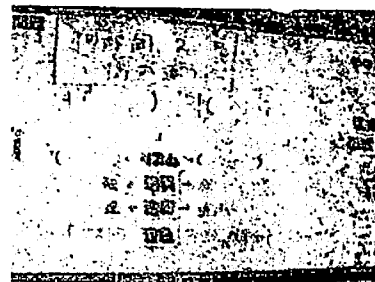
学習問題「何が同じ?何が違う?」

Aと**B**を1回聴く。

必ず気づいたのが[強弱]と

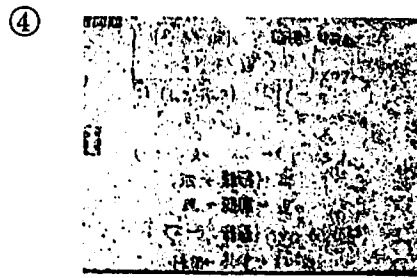
[速度]の違いである。[リズム]はクラスによって拍の刻みに気づく。

②



2回目を流す。

さらに気づいた「同じこと」「違うこと」を発表する。[リズム]で拍を刻んでいる楽器が**A**はシンバル、**B**はピアノと確認する。
[音色]はオーケストラ、弦楽合奏と確認する。



3回目、楽譜を見ながら聴き比べる。
 [旋律]の調が違う。[リズム]の拍子が違うことがわかり、[速度]の違いが確認できる。

[旋律]の音のつながり方が同じ、を確認するのに移動ドで楽譜上の音符を指しながら歌う。

作曲者と曲名を紹介する。
 要素毎に同じこと、違うことを確認する。
 感想を書く。

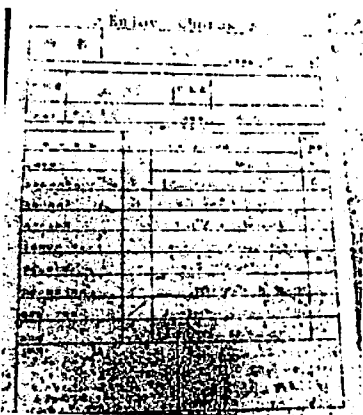
《その③の考察》

- ・よく聴いていた。教師も勉強（アナリーゼ）不足で“「旋律」が同じ”ということを感じ取らせなかったのだが、初めて聴いたクラスで「リズム」（刻んでいる拍）が同じという生徒からの答えに「なるほど！」と生徒の前で演技ではなく納得。「ではそのリズムを刻んでいる楽器は何だろう？」「他にも同じ要素や違う要素がありますよ。」と続けた。
- ・強弱の違いはどの生徒もつかみやすいが、わかったところで原曲のAはもっと強い音で、Bはもっと弱い音だが聞き取りやすくするため、ボリューム調整をしてあることを告げた。
- ・楽譜を提示した段階で目を輝かせた生徒がいたり、移動ドで歌った時に「え〜！」「本当だ。」の声聞こえた。
- ・A・B2つの曲の音楽的要素の共通点や相違点はその曲の特徴となり魅力となっていることへの気づきの一歩となったであろう。

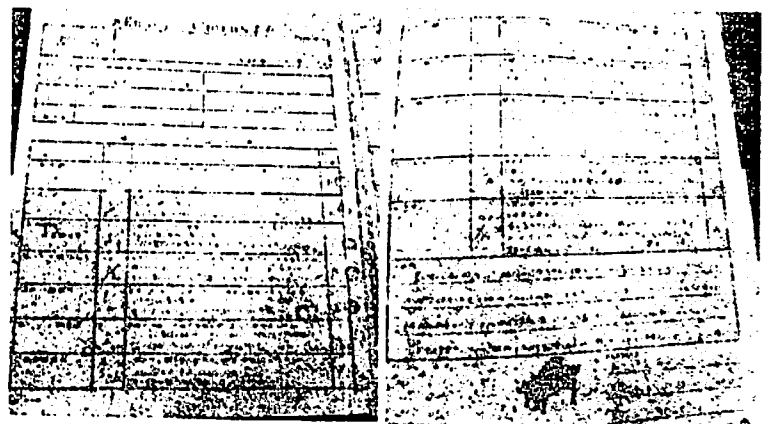
＜手立てその④＞ 検証授業①②

- ・合唱コンクールに向けての合唱活動を通して、言葉を用いて思いや意図を表す表現力を高める工夫としてワークシートの工夫を行った。毎時間、本時のめあてを確認して項目にそって振り返りを行う。個人的な助言やクラス全体への呼びかけとして活用することができた。

★Enjoy Chorus のプリント



↑過去の振り返りプリント



↑記入のポイントをつけた今年のプリント

《その④の考察》

項目（問いかけ）がついたことにより、一文表現（「良かった。」「もっと頑張る。」など）が減り、言葉による表現が増えてきている。また音楽用語も書くことによって身につく。教師が口にして「フォルテ」を「ポルテ」と書く生徒が2年前までいたが、今は「フォルテ」や「f」と書ける生徒が増えた。また「音符」「楽譜」の「ふ」、「音程」「地声」「迫力」などの漢字間違いも個々のワークシートで指導しつつ全体にも掲示して確認した。

去年は「書く」ということに学校全体、全教科で力を入れた年であったため、書くことに抵抗は少ない。より音楽用語の語彙数も増やしていきたいと考える。

<手立て⑤>

・アルトリコーダーの指導が終わり、リコーダーを片付けるときのサインミュージックとして「小さな世界」を演奏している。

3年生は3年間、2年生は2年間、1年生は5月から3ヶ月指導者は毎時同じ演奏をしていたので聞き慣れている。7月に全クラスで「演奏者の思いを感じ取ろう」という課題でじっくりとキーボードの演奏を聴かせた。奏者の思い（工夫）を聴き取り、文字で表現した。



学習問題

Pianist Akasaka は何かを伝えるため工夫をしています。何を工夫しているのでしょうか。また、どんな感じがしますか？

と板書して、プリントを配布した。

教師の意図は、速度・強弱の変化を最低聴き取って欲しい。次にスタッカート奏法やレガート奏法、rit.が伝わって欲しいとキーボードを演奏している。

《その⑤の考察》

・どのクラスもとてもよく聴いていた。いつもはリコーダーを吹いているときに終わりの合図として弾き始めたり、全員で曲が吹き終わった時に弾き初めたり様々だが、弾き始めは生徒がガサガサ片付けているのでほとんど聴いておらず、だいたい3回目くらいから聴き始める。（片付け終わる。）1年生の何人かは3回目、4回目はキーボード音に合わせて歌っていた。

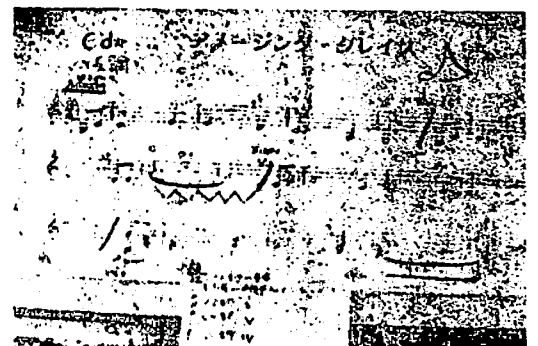
★生徒資料を見ての考察

イメージとしては伝わっているのだが、3年生にはもっと音楽用語が定着して欲しい。

<手立てその⑥>

アナリーゼ「Analyse」というプレートがあり、合唱でもアルトリコーダーでも新しい曲になると楽曲分析を行う。

- ・鑑賞曲では2・3年生はワークの活用、1年生は作成したワークシートで学習する。
- ・わかっているはずのことも確認、知らないことは調べて発表する。
- ・小学校の履修内容として知っていたことは褒める。



ついでに少し難しいこともさらっと語る。

(↑不完全小節など。)

《その⑥の考察》

- ・1年生の「アナリーゼ」って何？から始まり、2曲目、3曲目（合唱曲、リコーダーの曲）と曲に入る前には必ずアナリーゼをすることで、その曲を知ることが定着してきたところである。
- ・拡大楽譜でアナリーゼ等で学んだことを確認することで、音楽用語などの認知率がやや高まっている。
- ・生徒に教師のどの言葉がヒットするかわからないので、同じ音楽用語でもいろいろな切り口で与えていくことにより、「なるほど！」という言葉や生徒の目の輝きを見るとうれしい。

＜手立てその⑦＞

曲が持つ魅力を聴き取る。バリトン歌手が歌う「のみの歌」を鑑賞した。課題は『歌い出しの「昔」「王様」「のみ」の3語以外に聞こえてきた“ことば”を3つ聴き取りメモをし、その後は聴いて感想を書こう。』である。

1回のみの聴取だったので意味がわからない生徒が多い中、聴こうという姿は見られた。鑑賞後、詞は「魔王」を書いたゲーテであること。曲は「展覧会の絵」の原曲、ピアノ曲を書いたムソルグスキーであることを4月に鑑賞をしている2年生には伝えた。

《その⑦の考察》

- ・低音の魅力的な声で「む〜かし、お〜さま のみをか〜い」と始まり、滑舌よくはっきり歌うので生徒は真剣に聴き入っていた。ただ聞き慣れない言葉は、何人もが間違えてしまった。「大臣」が「大事」など。
- ・ゲーテについては1年次の鑑賞曲『魔王』で「子はすでに息絶えぬ」のイメージがあるので、こんなふざけた詞も書くのかという声が聞こえた。ロマンチックな詞などもいろいろ書いたと付け足した。

＜手立てその⑧＞検証授業③

楽曲の分析をして楽譜をよく見る習慣をつけるため、グループによる話し合い活動で表現の工夫をした。楽譜上は二重奏だが4人班でパートも考えて取り組んだ。「サムの一とひとりごと」「こげよマイケル」「エーデルワイス」の3曲でサミングを身につけることが題材の目標であるが、その曲の持ち味を味わい、速度や音色などを工夫して演奏した。

《その⑧の考察》

生徒の知識と教師の助言で、話し合い活動はどの班もよく取り組んでいた。班の中でリコーダーの演奏が困難であると判断した生徒はリズムパートを担当した。ワークシートにはそれを考慮して「その他」の役割欄を作っておいた。(歌が入ってもよいと思った。)どの班も堂々と演奏できていたが、工夫点の発表の声が小さかった。

7 成果と課題

○成果

- ・日々の挨拶（聴音）やリコーダーの聴奏、アナリーゼ等は定着しているので“継続は力”を信じて続けていく。

- ・“アナリーゼ”により音楽用語であれば、わからなければすぐ「コーラスフェスティバル」の裏中表紙を見て調べる習慣がついた。また新しい曲の度に確認をするので、前もって調べ手をしようとする意欲的な姿が見られるようになった。
- ・まだまだ未熟であるが、「サミング」「アーティキュレーション」「テクスチュア」など生徒の言語になってきている。
- ・今回の研究のため<手立て③><手立て④>（⑦は昨年度末今の2・3年生、⑧は現2年生で、後は全学年）を全クラスで行ったが、どのクラスもよく聴こうとしていた。
- ・アルトリコーダーを毎時間（5～20分）アナリーゼをしながら吹いているので、全体的に音色が良くなってきている。

◇課題

- ・リコーダーの聴奏では、例えば2年生ならファ#を必ず入れ3つ以上の音符を使った旋律を考えてこようなど生徒へ課題にする。
- ・どの教材でも当たり前だが、“聴く”活動の教材研究をしっかり行う。
- ・音楽室を音楽的な環境にすること、掲示物を題材毎に変え、その曲に関する資料はなるべく目につくところに展示するようする。
- ・机が鍵盤、音名つきなので音楽の可視化として活用する。
- ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを少しずつであるが感じ取って聴くことが出来てきているので、音楽のよさや美しさに触れさせていきたい。そのためにもどの教材でも当たり前だが、“聴く”活動の教材研究をしっかり行う。

第一部会

佐倉市立臼井中学校 荒川 淑子
 佐倉市立臼井西中学校 廣川 美和
 佐倉市立臼井南中学校 荒木ちひろ

研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
 ～音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる
 資質・能力を育成するための授業づくり～

1 研究副主題

「音楽的な見方・考え方を共有し、創意工夫を生かした歌唱表現を追求する生徒の育成」
 ～様々な言語活動やグループ活動を通して～

2 研究仮説

【仮説1】歌唱表現の授業において言語活動の内容を工夫すれば、主体的・協働的に音楽活動に参加できる生徒が増え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができるようになるであろう。

【仮説2】各グループで話し合われた表現の工夫について、学級全員で実際に試して歌ったり、録音して聴いてみたりすることで、音楽を形づくっている要素とその働きがいつそう明確になり、曲にふさわしい歌唱表現を更に追求する生徒の育成につながるであろう。

3 研究内容

【仮説1】について

- ・仲間との言語活動を行うために、まず個々の生徒が、歌詞や曲想から曲にふさわしい歌唱表現を主体的に捉えることができるようにする。また、捉えた内容について、言語化して、自分の言葉で他者に伝えることができるようにする。
- ・言語活動を設定する際に、話し合う内容を明確にし、内容の質が段階的に高まるように工夫するとともに、拡大譜に付箋やシールなどの教材を使用することで表現の工夫が可視化されやすくなるようにする。
- ・音楽的な見方・考え方を共有し合い、段階的・継続的に曲にふさわしい歌唱表現が深まるよう、掲示物やワークシートの作成を工夫し、思考の流れが可視化されるようにする。

【仮説2】について

- ・グループで話し合った創意工夫の具体的な表現の方法は、そのグループでも実際に歌って試し、ふさわしい表現か思考・判断するが、同時に学級全体でも各グループの表現の創意工夫を共有し合唱してみることで、少ない人数で歌うよりも音楽を形づくっている要素やその働きを捉えやすくし、音楽にふさわしい表現かどうか思考・判断できるようにする。
- ・音楽にふさわしい表現の方法を段階的・継続的に深めていくために、学級の合唱を継続的に録音し、1回目より2回目、2回目より3回目というように表現が変化し深まる様子を聞き比べられるようにする。

4 研究計画

H30	6～7月	研究副主題と仮説の検討・決定	3月	検証・研修
	8月	指導案作成	4月	指導案作成
	9～11月	授業実践 検証授業① 検証・研修	5月	検証授業③ 検証・研修
	12月	指導案作成	6～7月	研究実践のまとめ、 提案準備
H31	1～2月	検証授業②	8月	提案

研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

1 研究副主題について

「音楽的な見方・考え方を働かせ、地域に伝わる伝統音楽や民話の世界の表現活動を通して音楽づくりを楽しもう」

2 研究仮説

【仮説1】

友だちと共に音楽活動を行ったり、地域の人々との関わりをもったりすることにより、伝統音楽や日本音楽のよさや面白さを味わうことができるであろう。

【仮説2】

地域に伝わる伝統音楽や民話を聴いたり演奏したりする活動を取り入れることで、それぞれの思いを生かした表現活動につなげることができるだろう。

3 研究内容

【仮説1】について

伝統音楽の模範演技や地域に伝わる民話からイメージをもち、自分と友だちの思いを交流させて創作活動をすることにより、地域に伝わる音楽のよさや面白さを感じ取ることができるようにする。

【仮説2】について

栄町に昔から伝わる踊りや音楽、民話の由来や地域の人々の願いにふれる活動を通して、伝統音楽に親しみ、その特徴や構造を〔共通事項〕を手がかりに考える。そのような活動から、それぞれの思いを生かした音楽表現に結びつけることができるようにする。

4 研究計画

年 月	内 容
H30年 6月～7月	○研究副主題と仮説の検討・決定
9月～12月	○授業実践・検証授業①
1月～2月	○授業研究：検証授業②
3月	○研究のまとめと見直し
H31年 4月	○指導案作成・検討
5月	○検証授業③
～8月	○研究のまとめと提案準備

研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
 ～音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

1 研究副主題について

「音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ児童をめざして ～歌唱活動を通して～」

2 研究仮説

【仮説1】

楽譜の示し方や用い方を工夫し、楽曲の特徴を捉えやすくすれば、一人一人が楽曲への思いや意図を表現するために、音楽的な見方・考え方を働かせるようになるだろう。

【仮説2】

常時活動として正しい音程やハーモニー感覚を養う活動を取り入れれば、友達と声を合わせる心地よさやハーモニーの美しさを感じ取り、より美しい表現を求めようと主体的に音楽に関わることができるだろう。

3 研究内容

【仮説1】について

楽譜の示し方や用い方を工夫し、楽譜に慣れ親しむことから始める。その中で、音楽を形づくっている要素とその働きに着目できるよう、視覚化したり身体を動かしたりし、楽曲の特徴に気付きやすくする。そして、児童が抱いた楽曲への思いや意図を表現するためにそれらがどう関わっているのかを考え、表現活動に生かせるようにしていく。

【仮説2】について

友達と声を合わせたりハーモニーを作ったりする活動を常時取り入れる。その際には正しい音程による美しいハーモニーを意識させ、お互いの声や音の重なりを聴き合い、自分たちの表現の変化を感じ取れるようにしたい。友達と声を心地よく重ねる体験を積み重ねることで、より美しい表現を求めて主体的に音楽に関わっていけるようにする。

4 研究計画

年 月	内 容
30年 6月～	○研究副主題と仮説の検討・決定 ○実態調査
7月～	○授業実践 ○指導案の作成・検討
11月	○検証授業①
12月	○検証授業②
31年 4月～	○指導案の作成・検討
5月	○検証授業③
6月～	○検証授業④ ○研究実践のまとめと提案準備